

令和3年度教育課程単位計画表

福島県立ふたば未来学園高等学校（本校舎）

〈普通教科・科目〉

全日制の課程 総合学科

教科	科目	入学年度		令和3年度			令和2年度			令和元年度			備 考
		年次		1	2	3	1	2	3	1	2	3	
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	
国語	国語総合	4				4				4			現代文B、古典Bは、2・3年次継続履修
	国語表現											3	
	現代文A				2			2				2	
	現代文B				2	2			2	2		2	
	古典B				2・3	2・3			2・3	2・3		2・3	
歴史	世界史A		2	2			2	2			2	2	世界史Aまたは世界史Bと日本史Aまたは日本史Bまたは地理Bの計2科目を履修 地理Bは、2・3年次継続履修
	世界史B		3				3				3		
	日本史A		2	2			2	2			2	2	
	日本史B		3				3				3		
	地理B		2	2			2	2			2	2	
公民	現代社会	2			2		2			2		2	現代社会は、いずれかの開講年次で履修
	倫理				2							2	
	政治・経済				2							2	
数学	数学I	3				3				3			数学Aは、いずれかの開講年次で履修 数学Bは、2・3年次のいずれかで履修
	数学II			4				4				4	
	数学III											6	
	数学A	2		2		2		2		2		2	
	数学B			2・3	2			2・3	2			2・3	
	数学活用			2				2				2	
理科	科学と人間生活	2				2				2			1年次に科学と人間生活か、化学基礎および生物基礎のいずれかを、2年次に基礎の付する科目1科目を履修（ただし、生物基礎は1・2年次続けての履修は不可） 物理、化学、生物は、基礎を付した科目を履修した者が選択可 化学は、2・3年次継続履修
	物理基礎		2				2				2		
	物理					5						5	
	化学基礎	2				2				2			
	化学			3	2			3	2			3	
	生物基礎	2	2			2	2			2	2		
	生物											5	
保健体育	体育	2	3	2		2	3	2		2	3	2	
	保健	1	1			1	1			1	1		
芸術	音楽I	2				2				2			音楽I、美術I、書道Iから1科目を選択 芸術IIは、1年次に「I」を付す科目を履修した者が2・3年次いずれかで選択可
	音楽II			2				2				2	
	美術I	2				2				2			
	美術II			2	2			2	2			2	
	書道I	2				2				2			
	書道II			2	2			2	2			2	
外国語	コミュニケーション英語I	3				3				3			英語表現Iは、1・3年次のいずれかで履修 英語表現IIは、2・3年次継続履修
	コミュニケーション英語II			4				4				4	
	コミュニケーション英語III											4	
	英語表現I	2			2			2	2			2	
	英語表現II			2	2			2	2			2	
	英語会話				2				2			2	
家庭	家庭基礎	2				2				2			
情報	情報の科学	2	2			2	2			2	2		

〈専門教科・科目及び学校設定教科・科目〉

教科	科目	令和3年度			令和2年度			令和元年度			備 考
		1	2	3	1	2	3	1	2	3	
		必修 選択	必修 選択	必修 選択	必修 選択	必修 選択	必修 選択	必修 選択	必修 選択	必修 選択	
農 業	農 業 と 環 境		2			2			2		課題研究は、2・3年次継続履修 総合実習は、2・3年次継続履修 食品製造は、原則2・3年次継続履修
	課 題 研 究		3	3		3	3		3	3	
	総 合 実 習		3	3		3	3		3	3	
	農 業 情 報 処 理			2			2			2	
	野 菜			2			2			2	
	草 花		2			2			2		
	食 品 製 造		2	2		2	2		2	2	
	食 品 化 学										
	微 生 物 利 用			2			2			2	
	植 物 ハ イ テ ク ノ ロ ジ ー										
	農 業 土 木 設 計										
農 業 土 木 施 工											
造 園 技 術			2			2			2		
測 量											
工 業	工 業 技 術 基 礎		3			3			3		
	課 題 研 究			3			3			3	
	実 習			3			3			3	
	製 図		2			2			2		
	生 産 シ ス テ ム 技 術			2			2			2	
	環 境 工 学 基 礎			2			2			2	
	電 気 基 礎		3			3			3		
	電 力 技 術			2			2			2	
	衛 生 ・ 防 災 設 備										
	社 会 基 盤 工 学			2			2			2	
	地 球 環 境 化 学		2			2			2		
商 業	ビ ジ ネ ス 基 礎		2			2			2		課題研究は、2・3年次継続履修 原価計算は、2・3年次継続履修
	課 題 研 究		3	3		3	3		3	3	
	マ ー ケ テ ィ ン グ		2			2			2		
	商 品 開 発			2			2			2	
	広 告 と 販 売 促 進			2			2			2	
	簿 記		3			3			3		
	財 務 会 計 Ⅰ			3			3			3	
	原 価 計 算		2	2		2	2		2	2	
	情 報 処 理										
	ビ ジ ネ ス 情 報			2			2			2	
	家 庭	子 ども の 発 達 と 保 育		2	2		2	2		2	
子 ども 文 化											
生 活 と 福 祉			2・3			2・3			2・3		
フ ァ ッ シ ョ ン 造 形 基 礎											
服 飾 手 芸											
情 報	フ ー ド デ ザ イ ン			4			4			4	
	情 報 テ ク ノ ロ ジ ー										
福 祉	情 報 メ デ ィ ア			2			2			2	
	ア ル コ リ ス ム と プ ロ グ ラ ム			2			2			2	
	社 会 福 祉 基 礎		2			2			2		
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 技 術		3			3			3		
	生 活 支 援 技 術			4			4			4	
体 育	介 護 総 合 演 習			4			4			4	
	こ ころ と か ら だ の 理 解		2			2			2		
	ス ポ ー ツ Ⅱ	10	10	10	10	10	2・10	10	10	2・10	
	ス ポ ー ツ Ⅲ	10	10	10	10	10	10	10	10	10	
音 楽	ス ポ ー ツ Ⅳ										アスリート系列のスポーツⅡ、スポーツⅢは、1～3年次継続履修元、2年度入学生は3年次は、アスリート系列以外の生徒が2単位履修可
	ソ ル フ ェ ー ジ ュ			2			2			2	
美 術	鑑 賞 研 究			2			2			2	
	器 楽			2			2			2	
英 語	描 素						2			2	
	鑑 賞 研 究						2			2	
人 文	英 語 演 習			3			3			3	
	総 合 英 語 演 習			4			4			4	
	国 語 演 習			2			2			2	
	世 界 史 演 習			5			5			5	
	日 本 史 演 習			5			5			5	
理 数	表 現 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン			2			2			2	
	数 学 演 習			4			4			4	
	総 合 数 学 演 習			6			6			6	
	物 理 演 習									2	
	化 学 演 習			2			2			2	
	生 物 演 習			2			2			2	
	地 学 演 習			2			2			2	
応 用 数 学			2			2			2		
工 業	地 域 エ ネ ル ギ ー			2			2			2	
探 究	地 域 創 造 と 人 間 生 活	2								令和3年度入学生は、産業社会と人間の代替科目として履修。	
総 合	産 業 社 会 と 人 間				2			2			
総 合	的 な 探 究 の 時 間		3	3		3	3		3	3	
小	計		74～			74～			74～		
ホ	ー ム ル ー ム 活 動	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
合	計		77～			77～			77～		
組	編 成		4			4			4		

福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校 人材育成要件・ルーブリック (6 April 2021 Ver.)

学力概念	No	資質・能力・態度(まごめると)	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	
知識 Knowledge "What we know"	A	社会的課題に関する知識・理解 一般常識や基礎学力をつけながら、世界・社会の状況の変化やその課題を理解するための知識を身に着ける。	地域や社会の成り立ちについての基礎的な知識を得る。	地域の復興に向けた課題や、目の前の課題についての基礎的な知識を得る。	環境・エネルギー問題など持続可能な社会実現に向けた課題や、世界の状況・課題について基礎的な知識を得る。	社会の課題について、習得した知識を深掘し、周辺情報や関連情報を集め理解する。	社会の課題について、目の前の課題と関係する知識を俯瞰してつなげ、人に説明できるレベルまで理解する。	
	B	英語活用能力 英語を使ってのコミュニケーションができるようになる。	英語でコミュニケーションをとろうとする関心・意欲・態度を持ち、自分のことについて英語で簡単に伝えられる。	自分の興味関心のあることや、地域について英語で説明できる。	地域や研究内容について、原稿を元に英語でスピーチし、簡単な質疑応答ができる。(CEFR A2レベル)	地域や研究内容について、即興で英語でスピーチし、意見交換ができる。(CEFR B1レベル)	地域や研究内容について、即興でスピーチし、意見交換ができる。(CEFR B1レベル)	地域や研究内容について、スピーチ、事例などを交えながら英語で説得力を持って主張し、議論できる。(CEFR B2レベル)
	C-1	思考力 物事を論理的に考え、批判的思考ができるようになる。	与えられた情報を整理できる。	目的のある課題やその解決のための内容を論理的に掘り下げたてて考えられる。	メディアを活用して情報を集め、情報を分析・評価・活用しながら課題を発見したり設定できる。	弱美と理想の差を踏まえながら、広い視野・大きなスケールで既知の事実について批判的に考える。本質を追求することができる。	未知のことについても粘り強く考え、自分の考えや常識にとらわれず、多面的・根源的な問いを立て、本質的に考えることができる。	未知のことについても粘り強く考え、自分の考えや常識にとらわれず、多面的・根源的な問いを立て、本質的に考えることができる。
	C-2	創造力 自分なりの見方や好奇心を持って試行錯誤し、社会に新たな価値を創造することができる。	アイデアを生み出そうと、自分なりの見方や考え方に基づいた観察や思考を行うことができる。	好奇心をもって、他者との違いを生み出そうと行動できる。	目の前の課題に対して、これまでに得た知識や技術を関連づけながら、自分なりのアイデアを表現しようとして行動できる。	行動する中で、出会いから得られた知見や発想を取り入れ、自分なりのアイデアを社会的に価値あるものに高めることができる。	試行錯誤(創造のスパイラル)を繰り返しながら、価値を更に発展させ、社会に新たな価値を創造することができる。	試行錯誤(創造のスパイラル)を繰り返しながら、価値を更に発展させ、社会に新たな価値を創造することができる。
	D	表現・発信力 どのような場でも臆することなく、自分の考えを発信でき、他者の共感を引き出せる。	自分の意見や考えを、集団の前で話すことができる。	突然指名されたときでも臆せず、集団の前で、自分の意見や考えを相手に伝えることができる。	データや事例を紹介しながら、自分の意見や考えを相手に伝えることができる。	多様な人々へ、相手の立場や背景を考えた上、テクノロジーを活用したりしながら、分かりやすく伝えることができる。	多様な人々へ、相手の立場や背景を考えた上、テクノロジーを活用したりしながら、分かりやすく伝えることができる。	多様な人々へ、熱意とストーリーを持って腑に落ちる形で説得力のある発信を行い、共感を得ることができる。
	E	他者との協働力 異文化・異なる感覚の人・異年齢等と乗れ越え、仲間と協力・協働しながら互いに高めあえる行動が取れる。	集団や他者の中で、決められたことや指示されたことにより一人で取り組むことができる。	集団や他者の中で、自分の役割を見つけて、個性を活かしながら行動でき、身近なメンバーの支援もできる。	集団や他者の中で、互いに良い部分を引き出しながら、win-winの関係を築くことができる。	集団や他者の中で、互いに良い部分を引き出しながら、win-winの関係を築くことができる。	集団や他者の中で、互いに良い部分を引き出しながら、win-winの関係を築くことができる。	分断・対立・文化・国境を越えて、社会を改革する行動につなぐし、互いに高めあう同志としての関係をつくれる。
	F	マネージメント力 自分や組織での取り組みを計画性を持って進めることができる。	指示を受けながら作業を実施できる。	指示を待たず、解決に向けた適切な目標を設定し、自発的かつ責任を持って自分の作業を実施することができる。	全体にとって必要な作業を見出し、自分の作業に優先順位をつけて、複数の課題に同時に対処することができる。	作業の繋がりが、全体スケジュールを意識し、チームやメンバーで作業を適切に役割分担し、目標に向けた行動ができる。	今後のスケジュールやリスクを把握して、リスクへの対応策をチームで確認しながら進めることができる。	今後のスケジュールやリスクを把握して、リスクへの対応策をチームで確認しながら進めることができる。
	G	前向き・チャレンジ 自分を意味する存在として考え、自信を持って、課題解決のために自分の役割を見つけて、全力で取り組む、決してあきらめず遂行できる。	自分を意味する存在として考え、物事をポジティブに捉えることができる。	自分を自信を持ち、目の前の課題を自分のこととして好意的に捉えて、主体的に取り組める。	集団や他者に対して、思いやりや力をもち、周囲の幸せを考え続けることができる。	集団や他者に対して、思いやりや力をもち、周囲の幸せを考え続けることができる。	困難にぶつかっても逃げずに自分の責任を果たし、失敗してもその失敗を糧とできる。	困難にぶつかっても逃げずに自分の責任を果たし、失敗してもその失敗を糧とできる。
	H	寛容さ 異文化や考えの違う他者を受け入れ、思いやる気持ちで支えを持ち、協調して共に高めようとするところがある。	集団や他者の中で、他者を気遣うことができる。	集団や他者に対して、思いやりや力をもち、周囲の幸せを考え続けることができる。	社会をより良くしようと、社会の主体としての意識を持ち、社会がより良くなるための考えを持つことができる。	社会をより良くしようと、社会の主体としての意識を持ち、社会がより良くなるための考えを持つことができる。	社会をより良くしようと、社会の主体としての意識を持ち、社会がより良くなるための考えを持つことができる。	社会・未来を良くしようとする志を持ち、自分自身の意見を他者に真剣に語ることができる。
	I	能動的市民性 社会を支える当事者としての意識を持ち、地域や内外の未来を真剣に考えることができる。	所属する集団の一員としての自覚を持つ。	社会の一員としての自覚を持ち、社会の抱える問題に目を向けようとする。	自分の目標の達成のための行動を、常に自分自身で見直して反省しながら、学び続け、次の行動につなげて取り組むことができる。	自分の目標の達成のための行動を、常に自分自身で見直して反省しながら、学び続け、次の行動につなげて取り組むことができる。	社会の中で、自分の役割や意識を俯瞰して考え、自分の目標や将来の夢と関連づけて大高的に行動できる。	
J	自分を変える力 自分の言動や行動を俯瞰して見つめ直し、常に改善しようとする意識を持ち、次の行動や、将来の夢に繋げることができる。	自分を向上させるために、自身で目標を立てることができる。	自分を向上させるために、自分の目標と現実の差を見つめることができる。	自分の目標の達成のための行動を、常に自分自身で見直して反省しながら、学び続け、次の行動につなげて取り組むことができる。	自分の目標の達成のための行動を、常に自分自身で見直して反省しながら、学び続け、次の行動につなげて取り組むことができる。	社会の中で、自分の役割や意識を俯瞰して考え、自分の目標や将来の夢と関連づけて大高的に行動できる。		

協働
創造

自立

令和4年1月27日
高校教育課

令和3年度福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校
「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」
第2回コンソーシアム協議会 記録

日時 令和4年1月27日（木） 13:30～15:00
会場 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校（オンライン会議）

【出席者】

No	所属	職	氏名	備考
1	双葉郡教育復興ビジョン推進協議会	代表	笠井 淳一	
2	福島大学人間発達文化学類	特任教授	中田 スウラ	
3	福島相双復興推進機構	常務理事	遠藤 和人	専務理事代理
4	福島イノベーション・コースト構想推進機構	教育・人材育成部長	山内 正之	
5	NPO法人カタリバ 双葉みらいラボ	拠点長	横山 和毅	
6	ふたば未来学園中学校・高等学校	校長	柳沼 英樹	
7	高校教育課	主任指導主事	志賀 勲	教育次長代理
8	ふたば未来学園高等学校	教諭	林 裕文	企画・研究開発部主任
9	ふたば未来学園高等学校	教諭	齋藤 夏菜子	企画・研究開発部副主任
	高校教育課	指導主事	赤岡 奈津美	

1 開会（13:30）

2 主催者あいさつ（高校教育課 志賀勲主任指導主事）

3 指定校長あいさつ（ふたば未来学園中学校・高等学校 柳沼英樹 校長）

- 本日は、コロナ感染防止対策のため、本校の出席者が最少人数となりますこと、ご了承いただきたい。最終年度に向けて、コンソーシアム委員の皆様の忌憚のないご意見をいただきたい。

4 説明

(1) 令和3年度研究開発実施状況【林教諭】

- 1年次における地域課題把握のためのフィールドワークから演劇までの流れを強化した。
- コンソーシアムのご協力のもと、取材先を広げることができた。
- 本稿の活動に関わっていただく地域の団体や個人は、224件を超え、目標を達成している。
- 論文指導において、ルーブリックを活用した。

(2) 令和4年度研究開発実施計画等について【林教諭】

- 令和4年度入学生（特に一貫生）の探究レベルをどう引き上げるか検討したい。
- 生徒の探究を通して学びと地域復興の相乗効果を創出できるよう、今後も継続して取り組みたい。
- 取材先の外側を取り巻く複雑な対立・分断の構造を描き出すために、生徒がより広範な地域の方々と向き合い、課題の深掘りをする必要がある。

- 最終年度となるため、情報の共有、県内外への発信等の効果的な方法を検討したい。

5 演劇発表

- 1年次の生徒による演劇「トリチウム」を動画で視聴。
- 概要：トリチウムなどの放射性物質を含む処理水の放出について、様々な立場の方々を取材し、それぞれの役になりきり、演劇にまとめた。
- 平田オリザ氏からの講評：国の立場の方の葛藤にしっかり向き合っていた。椅子の配置で心情をうまく表していた。人間の複雑さを深掘りし、フィクションの力を使って探究してもらいたい。インタビュー先の人に共感して、これを伝えたいという気持ちが強くなることは当たり前だが、ここで踏ん張って、深掘りをしてほしい。ロジカルシンキングとクリティカルシンキングで考えられるかが大切である。国の立場で国民から理解を得ようとしている方がどうすれば困るかを考えてほしい。例えば、その人のお父さんが漁師だったらどうなるのか。これが演劇を作るということ。別の言い方をすれば、意地悪になるということ。原発事故などの不条理と戦う皆さんには、もっと深掘りしてほしい。

6 協議

- 遠藤和人氏（福島相双復興推進機構）

- ・演劇をやることの意義について、お尋ねしたい。

【齋藤】フィールドワークにおいて取材をすることで、様々な立場の方の気持ちや葛藤を理解することができる。また、班員同士で話し合いをしながら作品制作をすることは、「合意形成のトレーニング」にもある。「トリチウム」の演劇では、追加の取材を行い、当事者の視点から課題を追究しようという姿勢が見られた。

- 中田スウラ氏（福島大学）

- ・生徒の外部発表、コンテストの応募について、重複して参加していることはあるのか。

【林】実績としては、43件応募したが、重複は2件のみである。低学年での応募も見られる。

- 福島イノベーション・コースト構想推進機構山内正之氏

- ・論文指導におけるループリックは非常に有効だと思うが、どういった内容になるか。

【林】本校の論文の特徴はセルフエッセイが含まれること。自分が震災とどのように向き合ってきたかが探究に大きく関わる。その上で、論をまとめるために、アブストラクトシートを作成させた。

- 笠井淳一氏（双葉郡教育復興ビジョン推進協議会）

- ・双葉郡独自に、ふるさとや復興に関する探究的な学習として、「ふるさと創造学」を推進しているが、ふたば未来学園の取組は、大変参考になる。

- ・演劇における取組を共有できたらいいのではないか。

【林】ふるさと創造学発表会后、コロナ禍で探究があまり進まなかった生徒たちが小・中学生をもっと巻き込んで活動したいと言っていた。中高交流会等が生徒の探究の交流の場になるとありがたい。

- 横山和毅氏（認定NPO法人カタリバ）

- ・地域の課題とは、そもそもどういったものになるか。様々な学校で探究学習が行われているが、挙げられた課題を見てみると、人口減少、エネルギー問題などがよく挙げられている。地域における本質的な課題は、何かを発見させることが大切。

【林】引き続き高校とカタリバの連携による学びの協働・協創をお願いしたい。

7 閉会（15：00）

令和4年1月25日
高校教育課

令和3年度福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校
「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」
第2回運営指導委員会 記録

日時 令和4年1月25日（火） 15:00～16:30
会場 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校（オンライン開催）

【出席者】

No	所属	職	氏名	備考
1	OECD 教育局	シニア政策アナリスト	田熊 美保	
2	慶應義塾大学	教授	飯盛 義徳	
3	ふたば未来学園高校	校長	柳沼 英樹	
4	ふたば未来学園高校	副校長	南郷 市兵	
5	ふたば未来学園高校	教諭	林 裕文	企画・研究開発部主任
6	ふたば未来学園高校	教諭	齋藤 夏菜子	企画・研究開発部副主任
7	ふたば未来学園高校	教諭	高野 寛之	企画・研究開発部
8	ふたば未来学園高校	教諭	塩田 陸	企画・研究開発部
9	ふたば未来学園高校	常勤講師	山内 姫	企画・研究開発部
10	ふたば未来学園高校	教諭	荒 康義	企画・研究開発部、3年次主任
11	ふたば未来学園高校	教諭	鈴木 知洋	企画・研究開発部、2年次担任
12	ふたば未来学園中学校	教諭	新田 健斗	企画、3年生担任
13	NPO 法人カタリバ	拠点長	横山 和毅	
14	NPO 法人カタリバ	職員	内海 博介	
	高校教育課	課長	平澤 洋介	
	高校教育課	主任指導主事	志賀 勲	
	高校教育課	指導主事	赤岡 奈津美	

- 1 開会（15:00）
- 2 主催者あいさつ（高校教育課 平澤 洋介 課長）
- 3 指定校長あいさつ（ふたば未来学園中学校・高等学校 柳沼 英樹 校長）
 - 地域の皆様のご支援をいただき探究活動ができたことに感謝したい。コロナ禍における制限や限界を感じる中、教職員・生徒一丸となって、地域とのつながりを持たせていただくことができた。
 - 今年度の取組を分析していただき、最終年度に向けた課題について、運営指導委員の皆様のご忌憚のないアドバイスやご意見をいただきたい。
- 4 委員長あいさつ 田熊美保氏
 - 2022年全国高等学校グローバル探究オンライン発表会では、日本語・英語発表部門の両部門での金賞受賞につきまして、おめでとうございます。前回同様、こちらから指導という形ではなく、皆さんが解を見つけられるよう、対話を中心に進めたい。

5 説明及び協議

(1) 「ふたばメディア」について（生徒より）

- SNSとWebサイトを利用した複合メディアで探究活動の発信をしている。未来創造探究における問題点（探究活動の集約と発信がされていない、一過性の取組になっている）を解決するために立ち上げた。
- 年間1万2千円の活動費がかかるため、地域の事業所の広告を載せるようにした。
- 卒業生、在校生、地域の人々とのつながりを可視化した。メディアとして、データベースとしての新たな可能性がある。調査のアクション（意識調査やアンケートなど）のデータを共有すれば地域の財産となり、データに基づいた活動につながっていく。

(2) 質疑応答

<飯盛義徳氏>

- 継続性の担保、引き継ぎについてはどう考えているか。
【生徒】後継者を探しているところである。候補者はいるが、発信しながら探している。
- 情報の保管だけではなく、更新が重要。いつも同じ情報だと見なくなる。協力してくれる人がインセンティブを感じるか、やって良かったと思えるかについては、どうしているか。
【生徒】5年支援してくれる2社の協賛事業者がいる。影響力が必要不可欠であり、情報発信で魅力を伝えたいと考えている。

<田熊美保氏>

- ふたばメディアの目指す目的は何か、何か変えたいものはあるか。
【生徒】探究活動を集約することで地域を復興させることが目的である。その中で、ふたばメディアを通して、双葉地区の魅力を伝えたり、探究活動の底上げを図ったりしたい。
- 探究活動の共有については、ふたば未来学園の先生方も問題意識を持っている。学校内だけでなく、他県や世界の人々と共有するためには、データベースをカテゴリー化し、共通言語があるとなつたりしやすい。イスラエルで行われているブロックチェーンで生徒の成長を可視化する実験と似ている。

(3) 今年度の研究開発実施状況（林教諭）

① 未来創造探究実施状況

- ・コロナ禍でもコンスタントに実施できた。
- ・1年次の演劇において、コンソシアムにご協力いただき、取材先を広げることができた。
- ・探究活動を論文としてまとめるために、3年次において、論文ループリックを活用し、指導しやすくなった。
- ・6月に開催したみらいフォーラムは、文化祭の代替行事である。海外研修の成果やミャンマーからの留学生による発表、情報発信をテーマにパネルディスカッションなどを行うことができた。

② 目標設定シートのアウトカムについて

- ・本校で規定する人材育成要件・ループリックレベルは、3年次最終評価が2.90となった。年々上昇傾向であるが、3.5が目標。これは、野心的な目標である。
- ・2020年から2021年は、マネジメントの項目が上がっていない。コロナの影響で計画通りに進まないこと原因と考える。
- ・ほかの項目については、目標が達成されている。

③ 目標設定シートのアウトプットについて

- ・プロジェクト数は、3年生が約60、常に200プロジェクト動いている。数が多くなっているため、教員がどう関わるか課題。
- ・直接来校者数は、192人。コンテスト等応募件数、43件。概ね目標を達成している。
- ・関わっていただく地域の方の延べ人数は、260～270人くらいになる。企画の段階から協働的な関わりが見られ、質的变化が見られた。

- ④ 来年度に向けて
- ・中学校からの一貫生においては、探究の前倒しが可能。高校から入学する生徒をいかに巻き込むかを考えている。
 - ・探究発表会は複数日を設定する予定。
 - ・これまで御指導いただいたように、地域が活性化する探究活動が重要と考えている。今回のふたばメディアのように、いかに探究を引き継いでいくかも課題である。
 - ・教員の多忙化が見られる。教員のウェルビーイングも考えたい。
 - ・教員間で探究のノウハウの共有する時間は必要。
 - ・最終年度において、取組をいかに発信するかが課題。

(4) 質疑応答

<飯盛義徳氏>

- 論文指導において、どのような指導をされているか、分量はどのくらいかかせているか。
【荒】 I B (国際バカロレア) の Extended Essay (課題論文) を参考にした。要旨を最初に書かせる。要旨を骨格とし、目次をつけて肉付けする。世界の課題につながるように考察する。レベル 1 から 5 までである。今までは、分量は多ければいいという指導であったが、読みやすい 8, 0 0 0 字~1 0, 0 0 0 字程度の分量で書くよう指導している。
- 毎年ゼロスタートは大変であるため、例えば、大学 4 年生による発表会において、下級生にも建設的なコメントを書かせるという方法は有効である。下級生に論文の型を理解したり、作成の見通しを持たせたりすることができる。上級生と下級生の「共創」が見られる。半学半教(あるときは学び、あるときは教える)の関係性こそが「共創」であると考える。
【柳沼校長】 プレゼンのスキルは高まっている。読む人にわかりやすく伝えること、学年を追って系統立てて論文指導していくことが課題。下級生に見てもらおう方法について参考にさせていただきたい。
- 書くときの説得力と妥当性は、話すときとは異なる。書き方の基本を教えることは大事。引用、参照などのルールも学ぶ必要がある。大学では、ライティングコンサルタント(博士課程の学生)から論文の書き方や引用の仕方を学ぶという知の循環がある。文章を書くこともグローバルの要件だと思う。

<田熊美保氏>

- グローカルという考え方はいろいろなところで見られる。日本の探究活動を見ていると、地域と世界を分けて考えているので、地域と世界を結びつけようという意識が強い。ヨーロッパでは、グローバルとは地続きの発想。書く指導においても、グローバルの発想が大事。ふたば未来の取組がアカデミックライティングの高大接続になるといい。
- 先生方のウェルビーイングのために、学校全体のシステムチェンジについて、どう考えるか。
【荒】 探究の指導としては、教えなければいけないと一人で抱えるとキャパオーバーする。一緒に楽しんで考えていくジェネレーター立場になったり、ほかの先生方と役割分担をしたりするといい。
【齋藤】 演劇においては、毎年同じようにやれば楽かもしれないが、生徒の特性に合わせてやりたいため、労力はなかなか減らない。
- **【横山】** 柔軟な考え方ができるといいが、なかなか難しいこともある。カタリバとしても、先生方の変容に伴走したい。開校からやるが増えているので、何をやらないかという議論が必要。先生方のウェルビーイングと生徒の学びの両立を目指すのはどうか。企画研究開発部の存在が大きいの。先生方に対話の文化があるのが素晴らしいので、維持してほしい。
- 先生同士のメンターシステムはあるか
【横山】 探究指導において、長年いらっしゃる先生と新しい先生という組み合わせにしたり、月次会(月 1 回のミーティング)でゼミごとの課題や好事例の共有をしたりしている。
- 対話において、インフォーマルな関係性を作れるといい。探究か教科かと分けて考えるのではなく、連携させるから負担が減るといえる考え方にする。大事なことを抜き出すといい。

【林】会議の回数や出席者を減らしたが、先生方のノウハウの共有や擦り合わせの重要性を感じている。

- ドイツの学校では、会議のための会議は減らすが、目線合わせ、歩幅合わせ、呼吸合わせの会議は必要と言われている。

【荒】クロスカリキュラムは、本来どういうものをめざすのか。

- 先生が授業をデザインするというよりも、共創のアプローチでもある、生徒も授業をデザインする主体と考えるパターンもある。生徒が持っている知識を活用することも有効である。

(5) まとめ

＜飯盛義徳氏＞

- ふたば未来学園は、全国の先頭ランナーならでは大変さがある。ふたば未来の先生方や生徒の活躍を全国の学校が注視している。正答がある取組ではないが、全国各地に萌芽的な取組が見られる。地域活動と学校の教育活動をつなげる研究をされている方がいるので、そういった知見も生かしてほしい。

＜田熊美保氏＞

- 知りたいことがあれば、こういった会議だけではなく、いつでも私たちに気軽に尋ねてほしい。皆さんの知見をまとめて発信することは、次世代の生徒たちのウェルビーイングにつながる。

＜南郷副校長＞

- 「ふたばメディア」における探究活動では、教育を俯瞰して見ながら課題を指摘している。まさに学びと地域復興の相乗効果のサイクルをどう作っていくかという議論とつながっている。まだまだこれではだめだという意識やプラットフォームの具現化が来年度、考えるべきことである。また、ケースメソッドをどう入れれば、探究が深化するか、いかにコンテキストベース、コンピテンシーベースの学びに変えていくか、楔を打っていきたい。また、業務の軽減化についても、しっかり考えたい。

＜柳沼校長＞

- 多忙な状況を減らすには、メリハリをつけてやる必要がある。多忙感を減らすために、チームでやる、成功体験を分け合う体制づくりをしていきたい。多忙な状況を解決するためにはどうしたらいいか、解が見つからないが、チャレンジしていきたい。

6 閉会（16：30）

令和3年度 5期生プロジェクト紹介一覧

原子力防災探究ゼミ			
探究テーマ		探究テーマ	
マイクラでつくる双葉郡		村おこし in 葛尾村 !!	
内容	メンバー	内容	メンバー
①福島の中でも外でも福島や原発の情報に触れる機会がない。②1、吉川彰浩さんの話し合いで私たち高校生の視点を含めた未来も創ろうという考えを得た。2、福島学(案)会に参加した。③間違った情報を正しい情報と思い込んでいたり、身近にある危険や特徴を知らない人が多い。そのため自分の目で見たほうが何が正しいか判断できると考え、バーチャル上に今の原子力発電所を再現している。④福島を等身大に感じられたり、自分の目で見て考えるきっかけになってほしいと思っています。	菅波 竜人 猪狩 大樹 森 俊輔 山内 直 渡邊 快 浅川 悠	自分たちの解決したい課題は、葛尾村の小・中学生の人数が少なく、スポーツ大会などのイベントに人が集まらないことです。葛尾村の小・中学生は自分たちの住んでいるいわき市と比べてとても人数が少なく、人が集まらないことが自分たちの課題です。解決に向けたアクションはまだやってはいませんが、今後、葛尾村の教育委員会さんと葛力創造舎の枝さんと協力をし、葛尾村の小・中学生と仲良くなってイベントに参加してもらえるように学校などに行き、交流を深めていきたいと思っています。解決のためのアクションは上に書いたことと同じです。全国や世界の課題と照らし合わせて少子高齢化だと思っています。	市川 爽海 島山 潤也 園部 瑠伊
探究テーマ		探究テーマ	
「開けてびっくり! 浪江の宝箱!」		鉄たまごという地域の可能性	
内容	メンバー	内容	メンバー
①住民の帰還率が低く、若い人が県外や地域外に出てしまうことが多いことから、住民の方が帰ってきたいと思える町にする。②浪江町に実際に足を運ぶ。アンケートを行う。浪江町以外の双葉郡内の他の町と比較して考える。③ふたば未来学園の中高生を対象としたワークショップを行い、浪江町の伝統的な魅力や新しく行っている活動を見て、浪江町の魅力を知ってもらった。また、浪江町の魅力を生かした商品を考えてもらう。浪江町の「浜の輝」を使った料理を考え、浪江町商工会青年部の皆さんと料理対決のイベントを開催した。④福島県の双葉郡で避難解除が最近された町では、まだまだ10年前に時が止まったように建物などが残っている。少しずつ町を戻していくには、地域を盛り上げ戻ってくる人を増やすことが大事だと思う。それは世界や全国で過疎化が進んでいる地域や、同じように災害や被害を受けた地域も同様だと考える。	荒川 礼奈	①貧血で悩む友人や地域の高齢者の貧血問題について、地域の砂鉄から製鉄を行い鉄製品(鉄たまご)を作る。お湯を沸かすときに鉄たまごを入れ、そのお湯を飲むことで鉄分の補給を行う。②「まほろん」に行く→浜通の製鉄の歴史や製鉄の方法を学ぶ。岩手県南部鉄器を制作している工房に修行に行く→鉄鉄を溶かし鋳物をつくる工程等を学ぶ。福島市の刀匠藤安将平氏の工房に行く、古代鐵研究所所長吉田秀章氏の講話→海砂から砂鉄の分別、炉の作り方製鉄の方法③・小高町村上海岸、鹿島町右田浜海岸、四倉海岸、広野海岸の4カ所から砂を採取。→分析を依頼・鉄穴流しするための材料購入・道具の作成・鉄穴流しの実施 広野と村上について、砂3kgから2回行い、とれた量と成分の分析・製鉄炉を製作するための材料購入・道具の作成・平工業高校から機材の借用・7/14(水)第1回製鉄・8/18(水)第2回製鉄④広野町や近隣の海岸から採れる砂鉄から鉄製品が作ることができる可能性。現在日本は鉄鉱石や石炭を100%輸入に頼っている。資源供給の見直しになるのではないかと、また広野町の砂鉄から刃物等の製品を作れば、町おこしや産業の一つとして有効になるかも知れない。	木田 晏奈 宮迫 柚果
探究テーマ		探究テーマ	
環境事業でシビックプライドを作ろう		物語をきっかけに	
内容	メンバー	内容	メンバー
双葉郡八町村の経済循環率をまわし、環境にやさしいという新しいイメージを作り他県や世界からのイメージチェンジをはかること。震災前後の経済循環率をデータを使い比較。双葉郡に新しいイメージを定着させるには、何かいいのがあるか、一環境に配慮したものはなにか、ネットを使い調査。環境に配慮された商品を作り、どうやってサステナブルな社会・地球環境にしていくのか。地球温暖化が進み、世界では多くの国が温暖化・自然環境に対し政策を打ち出し環境経済にお金が回るようになってきた。その流れにもった探究活動である。	木田 晏奈 草野 真緒	福島への興味を呼び込みたい。また風評被害克服。福島県、また双葉郡の特産品や観光名所を調べました。小説投稿サイトで福島県を舞台にした小説の投稿。興味を持ってもらうきっかけ作り。復興の定義とは何かを考えた時に、震災を忘れず、しかし震災が原因の悪い面(風評被害)などは忘れられていくことではないかと考えました。	猪狩 玖美
探究テーマ		探究テーマ	
Future Quest		双葉郡内の未来時代を描く	
内容	メンバー	内容	メンバー
①負のイメージが残る双葉郡の町づくり ②放射線ワークショップ・廃炉フォーラム、3.11を学ぶ会、双葉郡バスツアー、双葉町街づくり会議、広島研修、大川小見学 ③桜ウォークゴミ拾い、ハイスクールアカデミー、双葉町6号線花壇・看板づくり、自動販売機設置 ④SDGsの10(人や国の不平等をなくそう)16(平和と公正を全てのの人に)と風評被害を無くす取り組み。11(住み続けられる町づくり)と町づくり活動が繋がるのでは?	渡辺 空	双葉郡内では、東日本大震災から10年が経ちましたがまだまだ復興が進められていない中でも絵を描いてやっています。また、解決に向けた調査アクションでは富岡町役場に行って復興のまちづくりのことを話をしました。解決のためのアクションでは、絵を描いたりするなどの作業をしています。全国などの課題と照らし合わせた考察では、皆さん方が戻ってこられるようにするために絵を描いて見せています。	長谷川優貴

ゼミ総合			
探究テーマ		探究テーマ	
ふたばの花革命(メディア×原子力防災)		VR in Futaba(メディア×原子力防災)	
内容	メンバー	内容	メンバー
① 町民の方々のストレス軽減。そして楽しみ、癒しを与えたい。さらにこのご時世、コロナで自粛期間が増えているので軽いひまつぶしになればいいなと考えました。② 私はストレス軽減するには、体や心に癒しが必要だと思います。そしてネットで『癒しになるもの』と検索しました。すると、マッサージ、香り、温もり、肌触り、他にも木の揺らぎ、綺麗な景色、色彩など様々な物がありました。そしてコロナ対策しつつ時間がある時に作れるものでも思い出として形に残るものはないかと考えました。そこで考えたのがアロマティックパーです。③ そして私たちの今後の活動としては双葉郡の町の花でドライフラワーを作成。もちろん町の花以外でもドライフラワーの作成を試みたいと考えています。さらにナラロマさんが開発したゆずのアロマオイルを使用してアロマティックパーを作成していきたいと思っています④地域への貢献	① 双葉郡に対して悪いイメージの情報が世の中に回っている。(原子力発電所の処理水問題など)双葉郡を良いところと思って貰えるようにするべきだと思い、今ふたば未来学園にいる私たちが伝えていくべきだと思った。双葉郡のことを知ってもらい自分事として捉えてもらうこと+コロナ禍で来てもらうことは難しい、遠くの方はなかなか来づらいということから、来てもらうためのきっかけ作りをしようとした。 ② 双葉町や広野町などを実際に見て周り自分たちでいい所を探しに行った。 ③ SNSなどを使い世界に発信したら良いと考え、動画を撮って発信した。VRとiPhone、それぞれのカメラで2つの動画を撮ってどちらの方が発信しやすいか比べた。YouTubeにあげた。 ④ VR動画を見てもうことは全国的にも来たいと思ってもらえることに有効であると言われている。国土交通省の資料によると、旅行前にVR又はARを使用した動画を見て、行ってみたいと思った人の回答が、強く思う46%、まあ思う46%という割合で8割以上になっている。これを見ても、VR動画を見ることは訪問意欲をあげるための施策として有効であると言える。現在コロナ禍でなかなか旅行などができないわけでもなく、観光業は低迷しつつある。オンラインイベントも、VR動画で発信することでコロナ禍の現状でも感染のリスクを冒さず楽しむことができるのではないかと考察する。	下鍋 桜瑛 八景 好香	
		富岡元気づけっぺ!!(メディア×アグリ×福祉)	メンバー
		① 震災で活気がなくなっちゃった ② 富岡観光協会さんと話した ③ 富岡観光協会さんの活動をInstagramを使って発信している ④ 富岡町を沢山のひとに知ってもらう	渡邊梨音 佐伯映蓮子 宮本エリカ
		観点	
		① 解決したい課題 ② 解決にむけた調査アクション ③ 解決のためのアクション ④ 全国や世界の課題と照ら合わせた考察	

メディアコミュニケーション探究ゼミ					
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
ルーブリック、うちの言葉で訳してみた。		富岡の酒粕を使った新メニュー		大熊町民との繋がりを作る	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
私達は、ルーブリック内の言葉がわからず、適当に行っている生徒がいることを知った。そこで、ルーブリック制作に携わった先生方に、行う意図や本来の実施方法を聞き、現在のルーブリックでは、一人一人の正確なデータを得られていないのではないかと考えた。ルーブリックを改訂し、副校長先生、校長先生に提案する。そして可能であれば、学校で私達が改訂したルーブリックを使用して貰おうと考えた。	加藤 鳴菜 白岩 眞奈	富岡町で作った日本酒から生まれる酒粕を用いて、新しいメニューを考えている。コンセプトにも出る予定。	青柳 彩音	自分達は大熊町を昔のような活気のある街に戻すためにはどうすればいいのかというテーマで探究しています。そのため大熊町出身者や大熊に興味がある人向けのイベントを企画、開催をしたり震災前の地図を作りたいと考えています。次に今まで自分たちが行ってきたアクションは大熊出身者の1名に昔の大熊町の現状と、今避難指示の解除された大川原地区の現状について教えてもらいその方を招いて座談会を開催しました。この2つのアクションから色々なことを学びました。	志賀 港 堀川 愛斗 志賀 弘崇
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
わかものがり		ペットとの避難		「他人事」を「知り合い事」に	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
東日本大震災後、双葉郡には避難指示が出され人口が減少した。地域内では交流が減り、外部からは原発事故があった場所というイメージだけが先行することで双葉郡に人が集まりづらくなる状況に危機感を覚えた。これからの双葉郡を守るために、これから大人になり産業に携わる若い世代が、地域について学び、衰退していく負の連鎖から脱却しようと考えた。そこで、私たち高校生が交流イベントなどを通じて情報発信をすることで印象だけでなく事実に基づいた情報を知ってもらい、マイナスな印象だけが浮かぶことを減らす取り組みを行った。	渡辺あさひ 小野澤彩乃	ペットとの避難について関心がない人、最低限のことを知らない人が多いことに着目しました。調査のアクションでは、ネットで避難に必要なもの、情報などを調べました。また、生徒向けのアンケートの作成で現状を調べました。解決のためのアクションでは、ポスターの作成、パンフレットの作成を現在進行形でしています。	鈴木 暹	双葉郡の中でも特に人口減少と高齢化が進む葛尾村に焦点を当て、関係人口を増やしていくことを目的としたプロジェクトです。主にコミュニケーションに関するワークショップや対話をういたイベントを行っています。葛尾村に関心を持って復興に協力してくれる人を増やし、村が壊れるのを防ぐことが目標です。自分事とまではいかなくても、関心を持つ人を増やしその輪を広げていくことはできると考えました。葛尾村の、人が少ないという弱点を逆手にとり、豊かな自然の中で対話することで、葛尾村の魅力に触れてもらいやすくなります。	政井 優花 半澤 詩菜
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
LGBTQと福島		震災について語ろう		ペットショップの実態と殺処分を減らしたい	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
私が探究しているテーマは、「LGBTQを身近に感じるために」です。この探究テーマを決めたきっかけは自分が当事者であることが大きいです。このテーマのためのアクションは、LGBTQの周りからの印象や同年代のLGBTQの当事者に話を聞いてみたり、実行予定なのが、ジェンダレスファッションを体験してもらうことです。このテーマを実行している上で、また視野は狭いですが、この高校でLGBTQの普及が進めるといいなと考えます。	佐藤 愛	①もっと人が集まるようにしたかった。 ② ③ない ④震災を経験している東北地方の人たちがあんまり震災を忘れてる人が多かった	吉田 愛佳 佐藤 菜 横田 うらら	震災やコロナの影響で動物たちが幸せになれず、殺処分されていることが悲しく、変えたいと思った。保護活動のボランティアと情報収集を行うとともに、日本とドイツのペット事情を比較し、日本のペットショップのあり方を考察した。	長谷川翔大 佐藤 舞
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
正しい情報を私の言葉で		もったいないバナナ		すべての子どもに豊かな生活を	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
福島に関する情報を得る手段が少ないことや、福島についての関心がないことから生まれる情報格差が原因で起こる偏見・差別問題を少しでも解決するために、Youtubeという多くの人が利用しているメディアを通して福島の現状などを配信する活動を行っている。福島＝原発＝難しいなどという印象を変えるために、福島の復興の象徴とも呼ばれているふたば未来学園の生徒である私の学校生活の様子など、比較的興味を持ってもらいやすい内容の動画を作ることを意識して活動している。実際にはどのような偏見・差別問題があるのか、福島県外の高校生は現在の福島についてどのくらい知っているのかを知るために、マイプロジェクトアワードなどに参加して意見交換を行った。また、NY研修を通して、世界でも同じように情報格差によって偏見・差別問題によって苦しんでいる人々がいることを知った。現在世界中で大流行しているコロナウイルスがその一例である。コロナウイルスの影響のため、なかなか思うように活動することが出来ないが、その中でもできることを見つけ、この探究活動を進めている。	古内 千聖	①栽培後に大量に廃棄されるバナナの葉っぱを使って、ビニール袋を使わずバナナを販売する。そして、環境を考えた広野のバナナを広める。→バナナ園にインタビューした際に中津さんが「バナナを美味しく作ることも大切だけど、環境を考えて育てることを大切にやっています」と聞いたから。②インタビュー2回本やネットで情報収集③バナナの葉を煮てみる・そのままの葉を使ってバナナを包んでみる④新しい包装方法でバナナを売ること、ゴミ(捨てても葉っぱだから肥料みたいになる)が減ったり、二酸化炭素を削減できる。・広野のバナナは栽培で無農薬とともに、販売も環境に優しくすることで新たな付加価値が生まれる。・普段量に廃棄されていた葉っぱを使うことで、コストも抑えて環境にも配慮できる。	戸田麻奈未	①日本で起きている子どもたちの貧困を知り、わたしたちの目線で同世代に伝える。②弁護士の日波さんとアンド舎と連携をとり、わたしたち高校生にできることは何かを考える。③アンケート調査。子どもの貧困を伝えるためのポスター作成④子どもの貧困は世界でも問題視されており、その解決がSDGsの目標達成に近付くと考えている。世界で起きている問題ならば日本ではどうか考え目を向けてみると様々な問題があることが分かった。その貧困の原因が何からくるかをわたしたちなりに考え、日本での子どもたちの貧困解決の手助けをしたいと考えている。	田中 愛琉 多田 優輝
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
futabamedia		Local Wedding		韓国と日本が仲良くなるには？	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
『去ってしまった者たちから受け継いだものはさらに『先』に進めなければならぬ!!』というわけで、SNSとWEBサイトの複合メディアを作りました。 詳細は サイトURL futabamedia.com instagram futabamedia.com	長岡嘉人 八島光 諏訪光 青田康介	①未婚化、地域の活性化②葛尾村の祝言式の主催者の方とオンラインで祝言式のことについて聞いたり、探究の相談をした。③祝言式の引き出物として広野町のバナナを使った大福が饅頭のレシピを考えて、食品製造の先生に提出し、可能だと言われたので実際に作ってみる。④地元のものを使って地元で結婚式を行い、それがSNSや式場などを通して色々な地域の方の目に入って、自分たちも地元のものを使った結婚式を地元でしたいという人が増え、未婚化が少しは解消されるかもしれない。地元の食材などを使うことで、土産を知ってもらえて、風評被害も減っていくと思う。	渡辺 初美 大井 瑠月	① 日韓の悪いイメージや偏見を少しでも無くして仲良くなって欲しい②③・早稲田大学のシンボウム・早稲田大学の助教グアンホ先生と対談・バクさんと対談・元カトリバのスタッフのおかからの紹介で韓国語講座のイベント・韓国料理④・日韓の国民同士では仲が悪いではないが政治的な面でありよりよくない状況である・韓国人は反日教育を受けていると感じていないが高齢者の方達が熱のこもった話を若い世代にするためその話を信じてしまう人がいることで誤解がうまれてしまう	山田あさか 吉田 春音

再生可能エネルギー探究ゼミ		アグリビジネスゼミ	
探究テーマ		探究テーマ	
トリチウム処理水から学ぶ		大熊×いちご×私	
内容	メンバー	内容	メンバー
キーワード:トリチウム 地元を学ぶ 科学リテラシー 私たちは、当時報道に大きく取り上げられていた原子力発電所の処理水について考えることで、地域のつながりから学びを深められると考えた。課題追究のために、論争となっていた点の議論や、モデルに伴ったシミュレーションを実感した。また、さらにミクロ的な視点で「水」そのものについて知らなくてはと思い、地元の浅見川の水质分析や、浄水場見学を行った。再エネゼミ所属だが、科学的な視点からのアプローチを行い、そこに情報メディア面の課題も見出すことができた。	猪狩宙 大越里輝 坂本颯太	大熊町では現在新特産品「いちご」を生産している。自分達は「食べることが好き」という共通点から「食」に関する探究を行っている。そして住民が最も少ない大熊町に目を向けた。現在大熊町は町内居住者がとても少ないことから「交流が少ない」と考え、コミュニケーションの場が極めて少ないと仮説を立てた。そこで交流会を開くこととした。……	久保木ふうか
探究テーマ		探究テーマ	
川		ニーハオーはばたけ広野バナナー	
内容	メンバー	内容	メンバー
解決したい課題は地球温暖化問題です。解決に向けた調査アクションは、川清掃に参加、ヤマメ移送に参加、スジエビを発見、スジエビの殻には炭酸カルシウムが含まれているので脱皮した時に二酸化炭素を吸収する、よってスジエビをたくさん脱皮させれば二酸化炭素を減らすことができ地球温暖化対策になる。世界的に地球温暖化は抑えないといけない重要な課題なので私たちの探究で地球温暖化対策をすることができます。3つのキーワード 浅見川・バイオミネラリゼーション・地球温暖化	鈴木 蓮 坂本 侑次 坂本峻太郎 菜花 侑生	①観光客がこない→食べにくる物がない ②ロールモデル森岡。食べにくるもので観光客を増やす。 ③そもそも浜に名物がない。名物を生み出す店がない。 ④新名物をつくる。お店を変革する。 ⑤名物をつくる。 セットミールビュッフェ	紺野空良 野口聖羅 坂本菜摘
探究テーマ		探究テーマ	
リモンネ		みんなバナナ好きだよねえ	
内容	メンバー	内容	メンバー
①広野の特産品(みかん)の皮が捨てられてしまっていて勿体無いということ。 ②みかんの皮にはリモンネという物質が含まれていてそれを使って何か出来ないかを考えた。 ③リモンネを取り出す為に水蒸気蒸留や、溶媒抽出法、ソックスレー抽出器を使って実験を行った。身近にある道具だけでも行った。 ④全国でも柑橘類の皮を捨てずに何かに使えればゴミも減るし、商品として売れることも出来ると思います。	石崎隆盛 坂本碧性 渡邊広樹	広野町にバナナがあるためこれからアクションをしようと思います。(バナナチップス、バナナカステラを使って料理します。)	山本龍矢 白土佳楠
探究テーマ		探究テーマ	
温度差発電		古着にもう一度光を	
内容	メンバー	内容	メンバー
双葉郡は震災以前は原発によって栄えていたが震災以降は人口が減少し町によっては産業が少ない所もある。地域を発展させるためには新しい産業の開発が必要になる。その問題を発展途上の発電方式である温度差発電によって解決しようと考えた。温度差発電は、酸化したジエチルエーテルでタービンを回し再び液化させて循環することで発電するもので、それを作成するために実験を行った。去年は水槽で温度差を再現する実験をし、今年はソックスレー抽出機という実験器具でエーテルを循環させた。現在は発電機を作る準備を行なっている。	青山蓮 塚越優作	①解決したい課題は、まだ使える古着、小さくなった服を捨てるという問題です。②解決に向けての調査アクションでは古着を集めている会社を探そうということをしました。古着を集めている会社や業者はたくさんありましたが同じ活動目標を持っている人を探するのは大変でした③ザ・パープルという古着などを集めてる会社に全面協力をしてもらい古着をもらいその古着からエプロンを作り地域の人に着てもらい古着でもエプロンになることができるということを知ってもらいリユースを広めていきたいです④僕が解決したい問題はsdfsの12番作る責任、使う責任ですこの活動と世界の課題は繋がっていると僕は思う	神田 悠斗
探究テーマ		探究テーマ	
凍み天復活		凍み天	
内容	メンバー	内容	メンバー
			藁谷 綺流

スポーツと健康探究ゼミ			
探究テーマ		探究テーマ	
町民楽々大作戦		カメラでパジャリ広野町	
内容 ①高齢者の認知症予防②介護老人ホームの花ぶさ苑に話を聞き、高齢者の実状やどのような認知症予防をしているのかを聞いた。ネットや本で認知症についてや、認知症をスポーツを使って予防する取り組みを考えた。③介護老人ホーム花ぶさ苑に協力してもらいリモートでの認知症予防のトレーニングを実施した。④世界的に、高齢化が進んでいる。また、コロナウイルスにより体を動かす活動や密になる活動が制限されている。自分たちが行っているリモートでの認知症予防活動が広がっていけば認知症予防を続けることができ、世界で認知症の高齢者が減少していくと考えた。	メンバー 井土 峻佑 朝倉 啓期 田中 日向 太田 翔麻 鈴木 豪人 市川 龍信	内容 ①肥満度が高い、子供の体力低下②インターネット検索③カメラマンさんにアポ取り、カメラマンさんにインタビュー、動ける場所の検索SNSのアカウントの開設④世界の課題 競技スポーツの人口が少ない 解決策 競技スポーツに関する写真、動画を載せる つながりカメラ、SNSを使って課題解決へアプローチできる。考察 健康のための生涯スポーツをする人が増えてきている。	メンバー 渡部 陽 小磯 愛斗 山田 脩斗
探究テーマ		探究テーマ	
Listen&Move 熱中症予防		町の活性化のために何ができるのか	
内容 ① 熱中症の患者が高齢者に多いと言う課題② ネットで熱中症予防やなぜ熱中症になるのかなどの知識を取り入れた。いわきFCの岩清水さん、ミツフジの池上さんに協力してもらいデバイスをお借りした。③ 広桜荘(老後施設)で熱中症予防などについて講演会を開きレクリエーション形式で体を動かし、体力作りという形で行った。④熱中症は水分補給がとても重要視されているが、世界にはまともに綺麗な水を飲める国は多くはない。そのため、水分不足で亡くなってしまっているという課題。	メンバー 小林倫太郎 荻原 聖也	内容 解決したい課題は現状を調べて町が活性化していると思い、町を活性化させたい課題です。そして解決に向けた調査アクションは町の活性化をするために、スポーツチームを設立したら活性化できると考え、いわきFCさんにスポーツチームの立ち立ちや経緯についてお話しを聞かせてもらい、自分達なりに考察しました。そして解決のためのアクションは町の現状について調べ、それを解決するために、インターネットで他県がどのような取り組みをしているのかを調べました。最後に全国や世界の課題と照らし合わせた考察について日本では過疎化が進んでおり、自分達のプロジェクトが全国で広がれば、過疎化に少し貢献できると思いました。	メンバー 吉田 翼 齋藤 広
探究テーマ		探究テーマ	
スポーツの力で世界と繋がる		TikTok ～いきいきプロジェクト～	
内容 ①さまざまな国のスポーツ環境を理解してもらい、更なる飛躍、発展に繋げる。②インターネットを使ってスポーツ問題について調べる。→日本と世界に縁がないことを知る。コロナ禍でも気軽に世界と繋がるためのツール作成。③YouTubeに動画を投稿して、世界中の誰もが視聴することができる環境作成。自分たちが情報発信者になること。④日本と世界では、スポーツに対する価値観がそもそも違うことや環境の違いなど。また、コミュニケーション能力の向上や国境を越えて繋がることが実現できる。	メンバー アスラブリゲ ネスタ ミルロイ 西間木祐太郎 渡部 拓斗 佐藤 大斗	内容 広野町の高齢者に視点を置き、基礎体力、身体機能の低下という課題を改善するため、保健センターの方やつくし会という高齢者の方々が集まる集会所の方と話し合い、協力の依頼をしました。そして、直接集会所に行き、高齢者の方々と一緒にダンスをすることが出来ました。SNSを通じて、私たちの活動を世界中に配信し、高齢者の方が運動をするきっかけになればと思います。	メンバー 小林 璃々 遠藤 佳歩
探究テーマ		探究テーマ	
障がい者スポーツの振興		貧血に悩む女性アスリートを少しでも減らそう	
内容 私たちは地域の障がい者スポーツの人口が少ないことを知り、近くの富岡支援学校を対象として障がい者スポーツの振興を課題としました。これまでに、知的障がい者のスポーツ、近くのスポーツ団体、富岡支援学校生徒の卒業後の進路について調べてきました。また、富岡支援学校の先生と話し合い、何度か質問や相談をさせていただき問題を解決する手助けとなりました。今後は実際に特別支援学校の体育の授業に参加し、体の動かし方を指導していく予定です。この探求活動を通して、世界にはスポーツを頼む文化がない国があることや施設や支える人材が少ないことがスポーツ振興が進まない要因であることを知りました。知的障がい者スポーツも共通する要因があり、この問題が解決できれば全ての人が運動を楽しむことができスポーツ振興が進んでいくのではないかと思います。	メンバー 松尾 駿 武井 凜生	内容 ①貧血に悩む女性アスリートを少しでも減らすことです。②貧血についての資料集め(ネット)、潮田玲子さんと貧血や女性の生理についてオンラインミーティング、第1回アンケート作りをやりました。③ふたば未来学園の中高生を対象に交流会を開くことです。一回の交流会を15分程度で行い、それをできたら2、3回やりたいと考えています。そして、交流会終了後参加者にアンケートをとり交流会後の変化について調べたいです。この間潮田玲子さんとオンラインミーティングをさせてもらったので、交流会に潮田さんがオンラインで参加してくれるか検討中です。④貧血が改善されて、女性アスリートのパフォーマンスが上がれば世界レベルも上がり、女性スポーツの差別や女性スポーツの禁止などの問題も減っていくと思います。過度な体重減量が原因でスポーツを辞めてしまう人もいるのでそこも貧血と関連づけて考えていきたいと思っています。	メンバー 小野 涼奈 田部 真唯 杉山 薫
探究テーマ		探究テーマ	
子どもの運動能力と向上		二ツ沼公園プロジェクト	
内容 ①子どもの運動能力の低下②いわきアスレチックアカデミーに行き指導の仕方や1つ1つの種目の目的を学んだ。スポーツテストをもとに行うため種目を行い記録測定と動画撮影。実践して撮影した動画とプロの陸上選手フォームをネットと比較した。③広野小へ確認後アクション④福島県の小学生は全国の小学生と比べて肥満率が高いことや日本の社会問題として子どもの運動する機会が少なくなるとスポーツイベントを開催する機会が減少していることから私たちが運動する楽しさを伝え、生涯にわたるスポーツに携われるようなきっかけ作りをすること。	メンバー 遠藤 春輝 須藤 颯斗 渡邊 真大	内容 まず課題として、地域の活性化、子供達の運動不足の改善に注目し、この2つの改善を目標にしようと思えました。解決に向けた調査アクションとして、まずはインターネット、学校の資料などから、地域の事を調べることから始めました。そして、二ツ沼公園さんに協力してもらいプロジェクトを進めようと思えました。解決のためのアクションとして、施設の見学、施設の関係者へのインタビューを行いました。最後に考察として、このプロジェクトは短期間では達成できないと分かりました、少しずつでもプロジェクトの規模を広げるために、次世代への引き継ぎを行おうと決めました。	メンバー 大塚 天 川俣 峻大

健康と福祉探究ゼミ					
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
コミュニケーションでつながるパト		認知症 もっと楽しく 毎日を(ゲーム編)		音楽療法で認知症対策	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
私の家族が介護の仕事をしており、高齢者とのコミュニケーションに興味を持った。広野町は孤独死が多いことを知り、調査してきた。日本の高齢化率は26.7%で広野町の高齢化率は36.54%である。広野町は高齢化率が高く、孤独死も増えると予測される。孤独死の問題の一つは亡くなって長い間発見されないことである。孤独死された方、家族にとっても辛いことである。それを予防するため、自然と繋がりをもてる環境にしていきたいと考えた。高齢者のコミュニケーションをとるため、権葉町の住宅街で実践を行った。会話をすることで自然と心が温まり、笑顔になることが分かった。交流館とカフェを合わせた場所を提案したいと考えている。	鈴木崇浩	認知症の発症により、ボーとする時間が増えるなどの生活変化によって、認知症が進行していくケースがある。このことが、世界でも課題になっており、自分の作ったゲームをその時間に使うことで、進行が抑えられると考えている。そこで、高野病院の協力を得て、二つのカードゲームを作った。「カードの大きさ」「硬度」「明らかに違う形」これら三つの新しい課題を抑えて新しい天気カードを作った。探究を進めていく上で、認知症患者に興味を持ってもらえるようにすることも大切であることが分かった。将来は、福祉系の職業に就きたいと考えている。この探究を生かして、関わっていき色々なことに興味を持ってもらえるよう行動していきたい。	矢内賢佑	私は、認知症の発症を遅らせる・予防することを目標に活動してきました。なぜ認知症予防をするきっかけになったのかあるニュースを見たからです。日本では認知症を発症する割合が年齢層が増えていくに連れて増えてきています。そこで記憶に残りやすく、不安や痛みを軽減、過去の記憶を思い出すことができる音楽の力を利用して活動してきました。今回、座りながら認知症予防を高齢者としたかったのですが、コロナの影響で断念することになり学生だけで行いました。ですがこのアクションを応用してまた挑戦してみたいと思います。	鈴木明日香
Enjoy with the elderly		aroma&refresh		高齢者の健康を支える食生活	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
2025年には「団塊の世代」が要介護者となり、現在よりもさらに要介護者の増加が予測される。高齢者になることができるに限られる。特に施設で生活している高齢者いつも同じ場所で同じことをしての繰り返しで変化が少ない。そこで高齢者の日常生活に変化をもたらしたいと思ひ広野町のデイサービスと一緒にレクリエーションを行ったり、入浴介助をするなど様々な実践活動を重ねた。	矢野 南夢	若者との間に壁を感じる高齢者が多く、「ハンドマッサージ」や「足浴」などのイベントを通して笑顔と健康を届けたい。今後、施設訪問やイベントに参加し、一人でも多くの人に元氣になつてほしい。「1リフレッシュ」をして欲しい。アロマスプレーを作っている。	阿部桃花	福島県の課題として、高齢者のQOLの低下に着目した。日本では、高齢化が進んでおり、現在高齢者の充実した生活が求められている。福島県の高齢化率は、全国平均を上回っている。また、高齢者は社会的孤立から外出する頻度も減り、生活リズムの低下から、低栄養になったり、生活の質であるQOLが低下している。高齢者にとって、質の良い食事は、楽しみや生きがいに繋がり、社会参加の意欲を向上させるなどメリットが多くある。そこで、食事の改善とQOLの向上を目指して、高齢者向けの献立を考えた。	高橋知那
ハンドケアで高齢者と交流		広野町探検隊～仲良し大作戦～		高齢者と高校生～偏見の壁をなくそう～	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
高齢者と高校生の交流する機会を増やすこと。そのためにまずは自分から向かい、高齢者の方と交流し、お互いのことを知る。広桜荘に行き実際にハンドケアを体験してもらった。高齢者と高校生お互いの印象が悪いこと。	秦 佳乃	私達は、肥満率を低下させるために、広野町を楽しく歩いて探検しながら解消させようと考えました。解消するためには、食事管理と運動が大切です。食事管理は、し過ぎると良くないし、難しいので、私達は、楽しく運動をして肥満対策をしようと考えました。広野町の広い地形や、たくさんの遺産物を活かして、子供たちと楽しく探検をしようと思ひました。探検をすることで、今まで知らなかった広野町の良いところを知るとともに、たくさん歩くことで肥満予防にもなり、一石二鳥だと思ひました。想定していたよりも多くの子供たちに参加していただきました。「また参加したい」という声もあって、この調子でたくさんの子供たちに広野町の良さを広めていきたいという気持ちになりました。	根本聖菜 坂本華葉 皆川叶美	私はおじいちゃん、おばあちゃんが好きです。ですが、高齢者と高校生には壁を感じることがありました。身近な人にアンケートを取ったところ、高齢者に対するイメージとして、いいところを沢山あげてもらいましたが、中には正直に好きじゃないと答えてくれた人もいました。そんな人に高齢者のいい所を伝えたいと思ったため、実際に関わり、気づいたことを伝えたいことを友達とお話をしました。	横田 琴音
Make your life in a shelter better ~これからの災害に備えて~		The challenged		高齢者に生きがいを～交換ノートで幸せ～	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
①将来自衛隊員になり、災害派遣に行ったときに被災者の不安を少しでも無くしてあげたいから。 ②夏休みの課題でコロナ対策を通じた避難所について調べた。 ・インスタグラムでアンケートを実施(1回目:投票、2回目:投票とアンケート) ・福祉避難所について調べた ・非常持ち出し袋について先生方にインタビュー ③避難所生活ははとも不便だということ、プライベートが無いということ。 ④最終的には学校全体を使った避難所体験を目標に、最初は少人数で実現させること、外国の避難所と比較して取り入れられることは取り入れること。	新妻紗玖良	前々からなぜ障がい者と聞いただけでマイナスで酷いことが思い浮かぶのか謎だった。同じ人間なのになぜ壁ができるのだろうか疑問に思っていたし、私の叔母も障害を持って生まれてきて私が幼い頃に亡くなってしまっ記憶がほとんどないが、母から叔母の話聞いてると私は叔母のことが大好きだったそう。そんなこともあり、障がい者と健常者との壁をなくそう、もし障害に対する偏見を持っていたらマイナスなことではなく、プラスなイメージに変えたいと思ひ障がいについてもっと理解してほしいと思った。	小野桃楓	現在、高齢化が進んでいると同時に少子化の影響で高齢者の方は若い世代の人達と交流する機会が減っている。そのため、私は高齢者の方と関わる機会を増やし、高齢者の方に「幸せ」や「楽しさ」を少しでも多く感じてもらうために、高齢者の方と一緒にできる手芸などを考えたが、コロナにより難しくなりました。そのため、交換ノートに変更しノートでコミュニケーションを取っている。これから、若い世代と高齢者が関わりを持つ機会を増やして欲しい。今回の探究で学んだことを生かし、高齢者のQOLを向上させられるように介護職員として頑張りたい。	桜井瑞穂
子どもロコモ改善プロジェクト					
内容	メンバー				
子供ロコモの原因は、震災後や今のコロナ禍の影響で運動不足やスマホ依存症による姿勢の悪さなどから助長されていると私は考えています。そこで、おこなった調査は日本臨床整形外科学会全国ストップザロコモ協議会の方に今の現状を伺いました。また、解決のためには広野小学校で小学4～6年生を対象に、月1回運動不足の解消で子供ロコモ改善へとつなげる活動をおこなっています。内容は楽しんで、友達とまたやってみたく思ってもらえるような運動遊びです。最後に、子どもロコモ改善は大きな課題です。今は少人数対象ではありますが、後々全国の色々な方へ子どもロコモとこの活動を知ってもらい少しずつでも症状が改善に向かって欲しいです。	鈴木寧々				

令和3年度 6期生プロジェクト紹介一覧

原子力防災探究ゼミ					
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
絵本×震災の記憶		ゴミ×絵本×カレンダー		子供の積極的な地域社会参画で地域復興はできるのか	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
震災を知らない世代の増加や震災の記憶の風化、震災を体験した人の高齢化に伴う震災の記憶の曖昧、今もなお残る双葉郡内をはじめとする被災地への風評被害などの背景をもとに、双葉郡内の人に東日本大震災について話を聞き、その話をもとに子供から大人まで読むことができる震災に関する絵本を製作し、その絵本を読んだ人が地震が起きた時にパニックを起こさないように防災意識を高めることを目指す。	草野真優 猪狩晴日	私は今の海洋ゴミの現状を多くの人にとって欲しいと思いました。そのために子供から大人まで読める絵本にしました。でも絵本は1度読んだら終わりということが多いので絵本とカレンダーを合わせることで毎日見ることができ、楽しく海洋ゴミについて知ることができるんじゃないかなと思いました。この絵本カレンダーで多くの人がゴミに対して関心をもち一人一人が一緒に考えて行動できるきっかけにしたいと思いました。	高久明日花	小学校の時、地域復興事業に参加したことから地域に自分の声が届き実際に地域の大人が動きだしたり、笑顔になっていく様子を見て地域から求められていると感じられました。この経験から双葉郡では子供の声を行政や地域の大人たちが聞いているのか、また子供は自分の地域に対し存在意義を感じているのかという問いを持ちこの探究を始めました。これからは双葉郡の小学生が自分自身で考え子供が社会参画のできる環境・町づくりをしていきたいと思っています。	浦山夏美
どうしたら本を読んでもらえるか		再エネで広野町に彩りを		土壌・川底放射線量から考察する探究	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
中学校では必ず朝の学活の5分前に読書の時間があつたのに対し、高校では決まった時間がなく本を読む機会がなくなったことがきっかけです。そして、本校の図書室利用数(6月分)の中学と高校の貸し出し数の差を調べたところ200以上の差がありました。また10人に高校になってどれくらい読んだかアンケートをとったところほぼ全員が読んでいない結果になりました。広野町には本屋や図書館がないので本の魅力を伝えるためにこれから活動を広げたいと思っています	小野楓花 白土愛実	小水力の開発をし、作った小水力発電を使って地域のためになにかできないかと考えた再エネ班のメンバーと、小中高の通学路に街灯が少なく、夜道が危ないと感じ、自分に何ができるかを考えたメンバーで、再エネを使って広野町に街灯の代わりとなるイルミネーションをしたいと思い、協力して探究を進めることになりました。小水力と太陽光、風力(仮)を使ったイルミネーションの明かりで、広野町を明るく元気にします。	中島一葉 鈴木一真 西間木健太 貝沼秀基	具体的な概要はまだ定まっていますが、着々と方針が固まり、本格的な行動ができるように準備を進めています。他校との交流から吸収出来る有益な情報を基に計画を立てていきます。(現在は基盤がまだ完全ではないので未発展な段階です)他校との交流(例)福島高専の先生による土壌汚染に関する講座に参加しました。そこではいままでも知り得なかった貴重な情報をいただきました。先述の高専以外も参加するふたばのこれらに関する政策を疑似的に考える企画にも参加して、街づくりなどに関する重要なデータも手に入れました。とにかく積極的に使えそうな有益な情報は手に入れて探究に活かしています。	大谷心亮 国井太陽
地元の食材で地元を活性化させよう		高齢者と若者のコミュニケーションを作る		居心地の良い学校を ～インクルーシブ教育で障がい者と健常者の壁を無くす～	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
私たちは地元の食材に注目して探究をしています。私たち自身地元の特産品を考えた時に思いつかず悩んだことがきっかけです。そこからインターネットや施設を訪問して特産品を調べ、その食材を沢山味わえるものという事でライスパークを作ることにしました。ライスパークを作りましたがその後の活動に迷ってしまい路線を変更させることにしました。私たちは防災に目を向けて地元の食材を使った非常食のようなものを作ろうと考えているところです。	藍原さやか 高橋衣織	私の理想は、福島＝震災ではなく郷土料理などの話題も増えてほしいことと、高齢者と若者のコミュニケーションが増えて地域に賑わいがあり地域に誇りを持って居られるようになってほしいことです。それで、私はアクションとシミュレーション発表会にでて色んな方からの意見などを聞いたり、福島、双葉郡の郷土料理はどんなものがあるのか?などと調べました。これからは双葉郡に郷土料理は本当にあるのかを調査したいです。	松村美優	私は中高生の障がい者と健常者の壁をなくしたい!そんな思いから今のプロジェクトを始めました。今のふたば未来は障がい者に対する差別や偏見が多いように感じています。そこで私はインクルーシブ教育に目をつけました。インクルーシブ教育を行うことにより、障がい者も健常者も普通の学校生活を行うことができ、差別や偏見がなくなるのでは?なくなることによって、みんなで楽しく普通の学校生活ができるのではないか、そんな優しい学校になって欲しいです。	阿部虹輝
A hidden AED		一人一人が考えられる防災		世代を超えた居場所づくり	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
私たちは、日本のAEDの設置率は世界一なのに、心肺停止になった方の20人に1人しかAEDが使用されていないことを知りました。その他いろいろ調べた結果、need will canがそろっているAEDについての探究を行うことにしました。一番の目的は、AEDの位置を誰でもわかるようにすることです。そこに、その他の応急手当、AEDのデザイン、地域とのつながりも加えたいと考えています。全国的に普及させたいものは、全国AEDマップの登録とAEDの案内表示で、双葉郡やいわきでは、そこに地域とのつながりを入れるつもりです。具体的な方法として、フォーラムやサミットなど各種のプレゼンテーションに出て、全国に広げます。地域に関しては、大人向けと中高年向けに講習会のようなものを行う予定です。	久保田明日香 児玉花心	このテーマを設定したのは、津波で流された祖母の跡地に別の人の家が立っていると聞いた私は、津波が来たことも忘れてしまうのではないかとという危機感からこのテーマにしました。そこで、防災マップに過去あった災害情報をのせたらわかりやすいのではないかと、思い、情報を調べるため、調査しました。主な調査は三つあります。一つ目は広野町史を読みました。水害、飢饉、冷害、波浪が多い一方で、津波、地震に関する記述は少なかったです。二つ目は、国土地理院 災害伝承碑より地震、津波に関する石碑を調べました。若手、宮城など他の県は多くありましたが、福島県は東日本大震災以前の災害情報は多くありませんでした。三つ目はいわき市役所の方にお話をうかがえる機会を伺ったので災害について聞いてみました。いわき市役所の方に震災までは災害がなく過ごしやすい土地と言われていたそうです。この三つの調査から福島県浜通り地域では、津波地震の少ない地域だったことがわかりました。このことにより防災マップにのせられる情報が少ないとおもったので別の方法で探求を行いたいけれどわからなくなってしまう思今悩んでいます。	大和田蒼空	“私は双葉郡でコミュニティの再生、居場所作りが問題になっていることと、自分が昔に経験した体験から、世代を超えた居場所作りという探究を始めようと思った。双葉郡では、東日本大震災により発生した原発事故の影響によりまだまだ多くの人が避難している人もいます。そしてほとんどの人が長年住み慣れた場所を離れて住み慣れた地域の住民同士とも離れ離れになり人と人との交流が疎遠になっているという問題があった。住民の中に一人暮らしの高齢者の方も多いと聞き、それに関する問題も聞き、居場所作りという探究にしたいと思った。また居場所の問題は高齢者だけの問題じゃないと思い、高齢者に限定せず小さい子供から高齢者までの世代を超えた居場所作りをしたいと思った。”	猪狩 羽琉

原子力防災探究ゼミ					
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
しのおのみち		流木の可能性		檜葉町の特産品で商品開発	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
元々は、海洋ごみを軸に探究をすすめてきました。しかし、震災のこともきょうみを持ち始めました。おもに防災です。また内容は明確ではなかったのですが、かぼりしてきてきました。そこでも行き詰まりました。ラボや先生に相談してきました。そして私は「海と人との関係」はどのようなものがベストなのか？というになりました。これを軸としてまずは塩をつづけている私の祖父に話を聞きます。	吉田百華	ぼくは流木について発表します。流木を有効活用するために、色々考えた結果、ハスクチップやパークチップなどのウッドチップを作るかと考えました。しかし、機械が必要でできないと判断しました。いまは、アクアリウム用のりゅうや流木をインテリアとして使用できるように加工しようと考えています。インテリアにするときにライトにするなど実際に使えるようなものをつくりたいです。	大和田朝斗	初めは友達二人と私の3人で、自分たちが経験した震災のことを小学生、中学生に伝え震災のことを知ってもらおうという探究をテーマにやっていたが上手くいかなかったり個人的にやりたいことが見つかり、その探究を辞めました。今は一人で探究を進めていて20日に質問しにやな場という所へ行ってきました。現在のやな場には鮭はいないけど私のばあちゃん、その友達数人が檜葉産の、柚、さつまいも、米などを使ってお惣菜やお弁当を作って道の駅に販売しています。この前そのお手伝いをしてきました。	奥山優愛
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
補食の可能性		ふたばメディア		Let's cheer up ふたば!!	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
私は、将来管理栄養士になりたいと食に関することをテーマにしたと考えていました。自分自身、陸上部と広野駅伝チームに所属していてスポーツと食を繋げたいと思っていました。栄養教諭の先生の話聞いて補食は運動している人にとって調子をを整えることを知り、食とスポーツと補食を合わせることにしました。あと、SDGsで食品ロスに興味もあり、家庭内での残りやすいものに目をつけて補食をできないかと考えています。これまでの調査は栄養教諭の先生の話や、本校の女子サッカー部の先生の話や聞いていました。話を聞いていて私は、補食をとることについて個人でやっているかと思いましたが、本校の女子サッカー部はご飯を食べる際例えば乳製品が足りなかったら、足りない分を先生とやりとりしながら摂取していることが分かりました。私は、少しでもいいからサポートのできることがあればやりたいと思いました。	松本安春己	ふたばメディアを継承してそれを広める手段を探究の一つとしてやろうとしたら想像以上に活動しなくて息詰まっていたやばい事と今まで行われてきた探究を振り返ってマンネリ化等の課題が起こっていないか調べてみたい。ふたばメディアに関しては今後色々話してどう改善するか考えていきたいと思っています。探究に関する考察に関しては先生から資料を買ってまとめていきたいと思っています。要するにまだ計画段階で何も進んでません。これから頑張ります。	長谷川優人	「双葉郡から双葉郡の今、応援、感謝を繋げる」小学2年生から始めたチアダンスの活動の中で出会った人々の想い、震災時たさんの人々に応援された経験から、今度は私が地元である富岡、双葉郡から様々なところに応援を返したいと思いプロジェクトを立ち上げた。地域イベントでのダンスパフォーマンス、フチ体験の実施の中で子どもたちの自己表現力、地域の繋がりに課題を感じ、現在は広野・檜葉・富岡の各小学校の先生方へのインタビューを経て、3町合同ワークショップを開催中。今後はこの取り組みを8町村に広げ、子どもたちの変化を調べると共に、8町村のコミュニティ作りを目指していく。	和賀葉々香

メディアコミュニケーション探究ゼミ					
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
松ぼっくりジャム		キャップアートで浮世絵を広める		生理によりそう探究	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
私の探究のテーマは「松ぼっくりジャム」です。部活どうで広野町散策を行った際に、案内をしてくださった町民の方が「広野町の松ぼっくりでなにか作れないか」と言ったのをきっかけに松ぼっくりに興味を持ち、調べてみたところ松ぼっくりジャムがあることを知り、その珍しさから広野町になにか貢献できないかと思いこのテーマにしました。また、広野町の松ぼっくりを使う際に、空間線量測定器を使って広野町の安全性も伝えられたらなと思っています。今は広野町で取った松ぼっくりを学校にある空間線量測定器で線量を測っている作業を行っています。1度ではなく何度か測り、より安全性を示せたらと考えています。そして、松ぼっくりジャムを使ってどうやって地域へ貢献できるのかを模索しています。	佐伯香音	私たちは、キャップアートで浮世絵を広めることを目標に活動しています。浮世絵は江戸時代に国民の間で人気でしたが、今となっては知られてはいませんが、興味を持っている人は多くはありません。私たちは、地域に何かできるかを考えたとき、ペットボトルのキャップが分別されていないことに注目しました。そこでキャップを使った浮世絵アートを作ることによってペットボトルとキャップの分別につながればよいと考えました。	樋水茜里 安部真利愛	私は生理の貧困を世界的な問題と捉え、まずは身近なところから解決のためのアプローチを試みています。貧困は金銭的な面だけでなく、心面でも貧しさはあります。私は生理がある人もない人も、正しい理解と平等な機会があるべきだと考えています。自分に出来るアプローチはまだわずかですが、まずは自校の生徒からの声聞き、具体的にはトイレにナプキンの設置・生体休暇の取得を試みています。最終目標としては、世界から生理に対する過剰な差別がなくなり、不便な思いが減ることです。	川名春香
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
殺処分について(仮)		非常食の準備を当たり前に		不自由なく過ごすとは？	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
そもそも殺処分というのがあることには何らかの要因があると考えます。思っていたよりお世話が大変・費用がかかる、懐いてくれない、うるさい、など小さなことで命を育てるということを放棄し、一時的な感情で無責任に尊い命を捨てていく人もいます。そのような勝手な理由で動物たちの命を奪われたくないと思ひ、まずその要因に私たちが寄り添っていくことと考えました。探究活動で私たちにできることは限られていますが、内容としては、まず広野町のペットを飼っている方々に直接コミュニケーションを取りながら調査し、何か悩みや問題がないか聞き出したと思います(アクション1)。そして、広野町の方から出てきた課題を元に私たちができることを考えて実行しようと思います(アクション2)。その際、アクションを起こす前に、あがりその課題や悩みを私たちがでも予想してみても、実際はどうか比べてみようと思います。そして、命を育てるうえで大切だと思うことや責任の大きさを、実際にペットを飼っている私たちなりにまとめ、聞いてくださる方に少しでも伝えられればと思います。	林日菜 吉田瑠佳	避難所での避難生活は心身にストレスを感じるものだと読んでいたことがあり、非常時や避難所でストレスなく過ごすためにはどうしたらいいか考え、食事であれば個人でできることがあると思った。備蓄する非常食の量や備えておかなければならないものの情報をまとめて発信したいと思っている。家で作れる非常食の紹介などもやっていきたいと考えている。多くの人が防災の意識を持ち、これから起こると想定されている南海トラフ地震や富士山噴火のときに自分やまわりの人の命を守り、幸せを感じながら過ごせるような社会になったらいいと考えている。	大和田紗希	私の探究のキーワードは、「バリアフリー」「障がい」「不自由を少なく」です。なぜこの探究のキーワードにしたかという、ふたば未来学園の生徒さん、私も含めてですが、大きな怪我をして不自由な生活をおくっている人、町民の方や広野町に訪れた体の不自由な人がいると思います。その人たちがどうやって不自由なく暮らせるかを考えた時に、広野駅のことを思い出しました。広野駅はどちらかと言えば駅自体も小さめで、エレベーターやエスカレーターなどありません。私自身怪我をするまで不自由を感じませんでしたが、怪我をしたときや、怪我をしている友達の手助けをしたときに「あれ？もしかしたら私が感じていた不自由ない暮らしは、他に障がいを持っている人からしたら、不自由ある暮らしなのでは？」と感じました。その時にこの三つのキーワードを見つけて、今回の探究キーワードにしました。	坂本涼

メディアコミュニケーション探究ゼミ					
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
絵本で東日本大震災を伝える		子どもの貧困を増やさないためには		福島を海外の人たちに伝える	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
東日本大震災についての絵本を作り、多くの人たちに正しい知識を持ってもらい、震災を知らない子供たちにも東日本大震災について、また、正しい知識を伝える。そして、また同じような大災害がおきた時、命を落とさないよう、知識を持って行動できる人が増えるようにしていきたい。絵本を通して、命の大切さや災害の怖さなども知ってもらい、当たり前前に生活できることへのありがたさや他人事ではなく、自分にも起こりうることだと自覚をもってもらう。	館尾亜里紗 高橋明日花	私の、研究テーマは子供たちの貧困を増やさないためにはどのようなことが出来るかを元に活動しています。今現在問題になっている虐待や育児放棄など様々な問題が挙げられます。そこで、寄付里親という言葉を見つけました。寄付里親とは社会全体で子供たちを支援するという取り組みです。アクションとして寄付里親のとらきみをしている大阪の人とズームで繋がりが詳しく聞きたいと思っています。	高崎菜々美	自分たちの実体験から、海外の人たちから福島は良くない印象のまま10年が経っているのではと感じた。中国と韓国に興味がある私たちは、その二つの国の人たちをメインに、双葉郡の自然や郷土料理などの魅力的なところについて発信していこうと思った。動画作りや外国の人との交流を考えている。そこで、発信方法や伝え方、対象を絞ったのでこれからアクションにうつりたいと思う。	渡邊光季 吉田優美
発達障がいに対する取り組み		ふるさとの記憶を伝えよう		福島と世界	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
発達障がいの子どもが増えている中で、日本では学校生活では補えない療育ができる施設が少ない。あったとしても、療育が行き届いているかわからない。その中で、私は、今の日本の現状や福島県内の現状をしていわき市での現状を調べ、比べてみる。実際に、小学校で支援学級に入っている子どもの親へのインタビューや、療育施設に通う子どもの親御さんの声を聞こうと思っている。将来私は、医療と連携した療育施設を立ち上げたいと考えている。	蛭田萌々花	この探求を通して私は、私たちより下の年代の人にも、自然豊かで教育熱心で魅力が沢山ある自分のふるさと、大熊町を知って欲しいと思っています。そして、自分たちのふるさとに誇りを持って欲しいと思っています。そこで、私は海外と教育に興味があるため、小さい子たちに英語を混ぜてふるさとを伝えていきたいと考えています。伝えることで自分の故郷を伝えられると共に小さい子たちと関わり新しい気づきを得ていきたいです。	新田 萌	オリンピックなどで、福島の食材が色々と言われてまわってそれを聞いた時に、正しい知識がないからこのようなことを言っているのでは無いかという疑問が生まれました。そこで、僕は元々Instagramなどで外国の方との交流などが多くあったので、少しでも多くの人に伝えれば、その人も周りの人に伝えられるのではないかと思います。Instagram、Twitterなどを通して、多くの知識や、情報などを発信しようと思うので、今回の探求をやらせていただこうと思いました。探求内容は主に、Instagramなどで、外国の方々と話をして、印象を聞き、これを改善するために、TwitterやInstagramで情報を流すという活動(?)を行っています。	堀川優斗
音楽から		Enjoy園歌		浜通り×聖地巡礼	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
私は、音楽を制作しにかかっている。音楽制作は、具体的に町の歌を作りたいと考えている。そしていまはコロナ化だが、音楽の発表を様々なところで行いたいと考えている。そして、コミュニケーション、音楽のヒーリングで、様々な人の心を癒すことができるように思う思いを込めて探求に取り組んでいる。私は音楽はかかせないとおもう。誰しも音楽は聴くものだ。それを最大限活かして、なおかつ地域にあった誰でも口ずさめるような音楽を作成していきたいと思う	齋藤康洋	「震災前の園歌の覚え方は今も受け継がれているのだろうか？」という探求テーマで進めています。この探求をしようと思ったきっかけは、子どもが好きだからです。あとは、やりたい事がなかった自分の好きな分野でやってみようと思い、この探求になりました。まだ、明確ではないですがやりたいアクションとして、旧幼稚園を使ってなにかやりたいなと思いました。もっと頑張りたいです！	八巻希美	「浜通りについてあまり知らなかった」「こんないい所があるのに、今まで気づかなかった」以前、浜通りの外(県内)に住む友人にこう言われました。この事があって、浜通りの魅力を外の人達にもっと知って欲しい。震災前以上に観光客を呼び込みたいと思い、このプロジェクトを立案しました。キーワードは「楽しい情報」と「聖地巡礼」。きっかけは楽しい物がいいな、という願いを込めています。	村山空留実 村上翔悟
風評被害と心理		郷土料理を広める		男性も保育の仕事を目指しやすい社会にするためには	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
私は風評被害と心理について探究しています。まず、私がなぜこの探求テーマにしたかという点、双葉郡の課題の中で興味がある課題は風評被害についてでした。私自身も父が単身赴任先で風評被害を受けたのがきっかけで興味がありました。それと私が大学に進学して心理学を学びたいと思っているのでこのふたつをうまく組み合わせられないかと思いこの探求テーマにしました。まず、福島に対する偏見、差別はこのようなものが挙げられます。被害にあったのに確信の無い情報のせいで風評被害に苦しめられています。風評被害はなぜおこるのかという点と日本政府の誤解を招くような発表が理由としてあげられます。その偏見、差別が福島の人々に及ぼした影響はこのようなものです。そこで思ったことはこのふたつを上手く組み合わせることで探究出来ないかということです。	鈴木麻友	「今の若い人は郷土料理を知らなかったり知っているけど食べたことがないことがほとんどで自分たちもそうだと感じ自分たちでも郷土料理を勉強しながら若い人達に広めていこうと考えました。まず自分たちでできることを考え郷土料理を作ってみることにしました。最初は個人で夏休み中に福島の郷土料理の味噌かんづらを作り夏休み明けの探求の授業で豆みそを作りました。まだここまでしか活動はできていませんが、これからは他にも少し郷土料理を作れるようになって人に教えられるレベルになったら郷土料理をみんなで作るワークショップなどを開いていきたいと考えています。	鈴木杏 石井楓恋 渡辺咲枝里	このテーマに取り組んできて、まず初めに今の保育でどのような問題があるのかと考えました。保育問題について考えたいと思い、いくつか問題を挙げてその中で保育士不足について調べようと思いインタビューを行いました。インタビューを行ってきて教育実習生の大学生二人の話が特に気になりました。大まかにまとめると、男性が保育の仕事を目指しにくい社会があるのではないかとということです。これから取り組もうとしていることは、これから保育の道に進む男性にインタビューすること、低い年齢の人たちに向けて保育の魅力を発信するという事です。	青木康汰
古着リサイクル		双葉郡を海外へ		果物の砂糖で情報発信	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
古着リサイクル(リメイク)によって、古着の捨てられる数を減らし、環境に貢献する。古着をリサイクルし、タオルやハンカチ、ぞうきんなどにする事で使えなくなった洋服でも寿命を伸ばし、資源の長期化を図りたい。洋服のリメイクをすることで、男女どちらでも着やすい服や、どんな世代でも着れそうなファッションを作ってみよう。国内だけでなく国外への洋服の足りない国へ支援することで世界的にも古着の重要性を知らせたい。	下河邊 望来	私のプロジェクト内容は、海外の高校生とオンライン交流会をして双葉郡を知ってもらうことです。内容としては、震災を経験したことのある人から経験談を詳しく聞きその話を海外の高校生に教えたり、その人と呼んで話してもらったり交流の場を主催する予定です。交流する前に、福島の印象を聞いて5段階評価してもらい、紹介した後も5段階評価してもらい知る前と後で変化をはっきりさせたいと思いました。	小野寺真白	双葉郡の果物を使って砂糖を作り、その砂糖でジャムを作る。そこから地域活性化を目指す。果物から砂糖を作る方法、双葉郡で作る果物達、ドライ柿の作り方、ドライ柿のいい所、果物から作る砂糖のメリット(普通の砂糖と何が違うのか)	穂積琴音 橋本樽子 馬目逸希

再生可能エネルギー探究ゼミ					
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
風(風力)の研究 (仮)		再エネで広野町に彩りを		土壌	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
調べること 風力発電の仕組み。今ある3つの風力発電(一般的なもの、洋上風力発電、マグナス式風力発電)を分析する。(メリット・デメリット、設置・稼働時における事故、材質、重量等) 風が吹くのはどんな条件がそろった時なのか。対角線上にある窓を開けると風が通るのはなぜか? 風力発電を設置するのに適した場所の条件とその条件に合致する場所。広野町の風向、風速など(アメダス観測)。 やってみたいこと(できるかどうかはわからない)は人工的な風の発生。弱い風でも発電できる風力発電装置の製作	渡辺彩夏	小水力の開発をし、作った小水力発電を使って地域のためになにかできないかと考えた原子力防災のひとつはさんと一緒に、小中高の通学路に街灯が少なく、夜道が危ないと感じ、自分に何ができるかを考えたひととさんとで、再エネを使って広野町に街灯の代わりとなるイルミネーションをしたいと思います、協力して探究を進めることになりました。小水力と太陽光、風力(仮)を使ったイルミネーションの明かりで、広野町を明るく元気にします。	貝沼秀基 鈴木一真 西間木健太 中島一葉	概要としては現在中間貯蔵施設に貯蔵してある約808.3万m ³ の土壌から最終処分量を低減するための再生利用が鍵とされており、その貯蔵されている汚染土壌の中から再生利用可能濃度の土壌を異物除去、濃度分別、品質調整を行い、公共工事等で管理した上で、やっと再生利用が可能状態です。このような過程をこなせるのは高校生の僕達では無理と判断し、もっと他の方法で簡易的にある程度濃度が低い汚染された土壌を再生利用をし、地域や社会に福島安全性をもっと理解出来たらいいなと思いこのプロジェクトを実行しようと考えました。	遠藤聖太 小松藍人
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
二酸化炭素削減		「水素」について広める			
内容	メンバー	内容	メンバー		
二酸化炭素と、地球温暖化の問題を繋げて二酸化炭素と温室効果ガスの違いや、二酸化炭素を削減するメリットや、取り組み、それら取り組みによってそれぞれどの程度二酸化炭素を削減できるのかをまとめました。また、二酸化炭素排出率の現状や企業や国の取り組み、実際に私たちにできる省エネや水の節約など簡単に二酸化炭素削減に貢献できる方法などをまとめました。聞き手が見やすいようにまとめました	平田遥翔 佐藤翔	わたしたちの探究テーマは水素についての知識を地域の人たちに広める活動です。この探究をやろうと思った理由は、双葉郡には福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)があるが地域の人たちはどのくらい水素についての知識があるかを調べ伝えるためにこの探究をしようと思いました。まず自分たちは、水素についての知識が浅いので、人に教えられるくらいの知識を身に着けるとそこから始めました。これからは、学校や地域の人たちに伝える活動をしていきたいと思います。	門馬新 鈴木博士 横山海斗 渡部拓斗		

アグリビジネス探究ゼミ					
双葉郡の魅力伝える化粧品開発			ふたばの新土産 せっけんせっけん		
内容	メンバー	内容	メンバー		
私がこのプロジェクトを始めた理由は、少子高齢化・過疎化や双葉郡の魅力が知らないことが気になったからです。なので商業で学んだことと、自分が興味を持っている美容を組み合わせたいと思いました。双葉郡産の果物を使った化粧品を開発し、それを使って魅力を発信して双葉郡に興味を持ってもらいたいと考えています。また、双葉郡産の果物を使用することで風評被害の削減にも繋がったらいなと思いました。	山内菜々	双葉には八町村があって、それぞれの特産物はいっぱいあるけど、双葉郡を代表する特産物は少ないと思いました。今コロナで頻繁に手を洗う際に使われる石けんにそれぞれの代表的なものを入れていきたい。例えば、川内の蛙、檜葉藍染め、富岡の桜、浪江の焼きそば、広野のみかんやバナナ、大熊のいちご、葛尾村のヤギ、双葉だるまをイメージした石鹸を作りたいと思います。これをきっかけ、県内外も、話題となり、もっと興味を持ってくださる人が増えたら、嬉しいです。	佐川生華		

健康と福祉探究ゼミ					
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
交流で心もからだも健康に。		地域リング		介護士増員計画 ～NEXT GENERATION MEMBER～	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
私は震災前、檜葉町に住んでいました。そして震災後、いわきに避難して高校入学と同時に戻ってきました。その時まず感じたのが、震災前と比べると地域の人との交流の場がなくなってしまった、減ってしまった、悲しいということでした。知り合いからも同じような話を何度も聞いて、以前のような活発な交流を復活させたい、地域の人・高齢者の方にもっと元気になってもらいたい、そう思いこれまで探求を進めてきました。今は大きなアクションを起こしてはいませんが、これからイベントを開いたり、zoomで交流をしたりしたいと思っています。興味のある人はぜひ参加してみてください！	松本 花	探究テーマは「地域リング」で、目的は子供と高齢者と障がい者の交流を増やすことです。この探究をやろうと思ったきっかけは、元々運動を通して子供が高齢者と障がい者の別々の探究をやっていました。ですが、運動を通して交流することが共通点だったこともあり、子供と高齢者と障がい者のみんなで交流をするということにしても面白いのではないかと、と思い、この探究を始めました。私たちの最終的な目標は、運動を通して地域の交流を増やし、互いに助け合える活発な地域を作ることです。	有賀菜月 村上舞	私の探究の目的は、福祉科で生活援助従事者研修というものを行っている、今後高齢者が増えていき、介護士が少なくなっていくということを知ったからです。介護というものは誰にとっても、決して遠い存在ではなく、家族やお友達などのお世話をすると共に役立つものです。なので、介護職に興味がある人でも、介護職に興味がない人でも、介護職に興味はあるけど大変そう…辛そう…などと思っている人に少しでもいいから、仕事内容を知ってほしいと思いました。	大山未来
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
幼児と音楽・幼児と運動		障害者の避難について			
内容	メンバー	内容	メンバー		
私たちは、「幼児と音楽」「幼児と運動」をテーマに探究活動を行っています。また、コロナの影響でなかなか交流する機会が少なくなっている現状を感じ、子供たちの笑顔を増やしたいと思いました。そのことと、自分たちの好きなことである音楽や運動を結びつけたテーマにしました。これからの時代の中心となる子どもたちが、もっと元気に楽しく過ごせる状況が増えていくために、今ある施設や何かをいかしていきたいと考えています！	片山希良里 大川原菜々海	“東日本大震災の津波によって障害者の多くは津波から逃げきれずに死亡してしまったり集団での避難生活で辛い思いをしました。その多くが、地域住民の声掛けで助かったかもしれない命もありました。避難所ではハイリャフリーが整っていない、自分から障害について発信出来ずにいる人がいました。障害を持っている人が地域との関わりを持って災害時に安全に避難やその後の生活に少しでも不安をなくしたいです。”	三村咲綾		

健康と福祉探究ゼミ					
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
LGBTを理解する		中高生が将来にわたって、役立つ正しい食生活をみにつけるには？		DANCEでたくさんのSMILEを！	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
まずは全体(日本だけでなく全国)を通してLGBTがどういうものなのかを何んとなくだけではなく詳しく正しく理解してもらい、理解したうえで自分の身近な地域から濃くひろめていくと共にLGBTの人が生きやすく、住みやすい街、地域を目指すことです。そのために自分で決めたアイディアは、自分がLGBTを理解するというテーマにするきっかけとなった動画をみせること。これは、自分がどれだけ真剣に取り組んでいるかがわかるといいます。そして、広告を作って差別の深刻さを知ってもらう、他人事ではなく、ひとりひとりが自分のことのように考えてもらうこと。これは、少しでも差別や偏見の目をなくすように努力するためのです。	あゆちゃん	自分は、中高生が将来にわたって、役立つ正しい食生活をみにつけるには？を問いに活動しています。まず、福島で問題になっているのが生活習慣病です。しかも、福島県でメタボ率がワースト4位なんです。その原因のひとつが食生活です。これをきっかけに私はどうすれば、健康な食生活を送れるのかを調べることになりました。今のところネットで調べたのでは、肥満や高塩分摂取の要因となる食行動をしています。例えば、朝食欠食、味がとても濃い食事ばかり。野菜を食べる頻度は毎日1回未満、と言った結果が見られました。本当に残念でした。なので私は将来がある中高生を対象にアンケートを取ろうことになりました。結果はまだです。その結果を元に、また色々なことを調べていきたいと思っています。	吉田な	私たちは、今コロナなどでなかなか外出できない地元や地域の子どものために私たちができることはどんなことをテーマにして探求活動しています。なぜこの探求活動をやるのかと思ったかという、まずコロナで自由に出歩けないことによりストレスが溜まってしまっている現状に着目しました。そこで私たちに共通している体を動かしたりすることが好き、人と関わる仕事が好きという共通点から、ダンスで体を動かし人と関わりながら何か出来るのではないかと考えました。またダンスには身体や心を活性化させたりする効果があります。このような効果からコロナによるストレスを軽減し、笑顔になれる日を増やすことができるのではないかと考えました。	大柿 百加 星涼乃

スポーツと健康探究ゼミ					
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
健康を通して肥満を減らそう		コロナ禍でもスポーツ観客数を増やそう		スポーツを通して広野町を健康で活気のある町にするためには？	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
“私たちは健康を通して肥満を減らそうというテーマで活動しています。そこで私たちは私たちの一週間の食事の栄養素を調べ何が足りているのかまた何が足りないのか、取りすぎているのは何かを調査しました。それで私たちは炭水化物や糖質を取りすぎていることがわかりました。また、逆にビタミンやタンパク質が足りないこともわかりました。そこで私たちは1日必要なカロリーや栄養などについて調べ、必要な栄養を取れる食べ物を作ることになりました。それを完成させたらそれを皆さんに広め健康で生活習慣の整った社会を目指します。”	柳沢紅芽 門馬洋平 平子朝陽	“まずはスポーツ観戦をするために、どのようなコロナ対策をしているか、色々な人に連絡を取りました。まずは、高校野球連盟の鈴木様に連絡させていただきました。鈴木様には、夏の高校野球のコロナ対策について聞きました。そうすると、コロナで運営する側の人数を減らすことはできるがその分人手不足になってしまふ。ということがわかりました。そして次は観戦者の立場になって見ました。そこでは、ビール販売、飲食、席はあまり開けてないなどがわかりました。しかし、マスク、計温、消毒は徹底的にやりました。そして、まん延防止が解除後と帽子の時の対策などは違うのかと聞きたく、いわきFCさんにお話を聞く予定です”	横田慶太	肥満度が高い福島県、そこから運動不足が課題だと感じて運動で広野町を活気のある町にしようとおもった。活気のある町にするために、小学校低学年、高齢者向けにスポーツイベントを行いたいと考えた。理由は低学年の子たちに運動や体を動かすことの楽しさを感じてもらえれば、成長していくにつれ活気のある町になっていくとおもったからだ。また高齢者を対象にした理由は少子高齢化が進んでいて高齢者が多いので運動や体を動かすことの楽しさを感じてもらえれば人数が多いので広野町が健康で活気のある町になると思ったから。実際に小学校低学年向けにイベントを行った。すぐ夢中になって楽しんでくれた。先生方にもほめていただいた。またやりたい、楽しかった、好きになった、という声がたくさん聞けた。目指す町に近づけたと思う。これからは活気のある町にするためにスポーツイベントなどをもっと行って体を動かすことを好きになってもらえるようにしたい。	山口龍之介 さとうれお 遠宮こうせい かんのたくみ しおたりく 磯上ゆうた 高橋じゆうさ
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
スポGOMIで町をきれいにする		スポーツをする人のけがをしなない体作りを支える			
内容	メンバー	内容	メンバー		
私のプロジェクトは、スポGOMIというスポーツを取り入れたゴミ拾いを、探究として取り組めるよう少しオリジナルを入れて開催し、自分たちがお世話になっている広野町をきれいにするというものです。ですが、ただ町をきれいにするだけでなく、町をきれいに保つ意識、ゴミを捨てるべき場所に捨てるという意識を町民の皆さんに持ってもらうことを目標に取り組んでいます。イベントを通してただただ町をきれいにするだけでは継続的に町をきれいにできないと思います。ですので、きれいにするというところに視点を置くのではなく、どのようにすれば町民の皆さんに町をきれいに保つという意識を持ってもらえるのか、ということを大切にしています。	梅津心	私たちの班は、マイキーワード『スポーツ』という共通点を持った野球部とサッカー部計四人で集まりました。私たちの探究テーマはスポーツをする人の、けがをしなないからだづくりを支える。です。けがで、スポーツをやめるひとをなくしたいということで、このテーマにしました。まず、ケガをしなないからだを作るには、と、考えたときプロテインを飲み体を作ろうと考えました。そのために皆さんにプロテインに関するアンケートに答えていただきました。しかし、管理栄養士の水口さんにお話を聞き、アドバイスを頂いたところケガをしなない体を作るには、炭水化物を摂取しない限り効率よく疲労回復や栄養を吸収しないとおっしゃっていました。そこで僕たちはそのアドバイスをもとに、現在試行錯誤を繰り返しています。今はプロテインを手軽に、苦手な人も食べれるようにアイスにするプロテインアイスプロジェクトと、ケガについてのプロジェクトをしています。	吉田翔 添田心斗 大矢聖聖 佐藤哉汰		

スポーツと健康探究ゼミ					
探究テーマ		探究テーマ		探究テーマ	
バドミントンで地域活性化		肥満児を減らそう		運動しながらゴミ拾い	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
<p>“みかんクラブに行った時にバドミントン競技者が少なかったため、バドミントンに力を入れている私たちが自分たちの経験を活かしてバドミントン競技者を増やす。</p> <p>みかんクラブに行き、小学生対象のバドミントン教室に見学して感染対策や、小学生への対応、練習内容など、色々なところを見て学んで、実際に自分たちが小学生対象でバドミントンを開く。そこで学んだこと、大切なことを実行していく。</p> <p>小学生や広野町にバドミントンのたのしさを伝える。”</p>	岩野凜也 齋藤駿 崎野翔太 藤田真茅 松本雛 渡邊愛夕	<p>私たちは、肥満児を減らそうというテーマでやっています。駅を歩いている時や街を歩いている時に小学生とすれ違うと肥満体型の人が多くなると感じ、このテーマでやっています。気になって調べた時に福島県は肥満児が多いというデータが出たので気になって調べたいと思いました。まずは広野小学校でアンケートや運動をして、小学生に運動する楽しさを教えてあげたいと思っています。探究の終わりに小学生に運動の楽しさを知らせていきたいと思っています。</p>	持館大晟 比佐優津希 半谷洋凱 坂本羅太	<p>“広野町からゴミ捨て場やゴミが落ちていないとても綺麗な町を作るために効率よく、そして自分達の好きなスポーツを関連させてゴミ拾いが出来ないか？</p> <p>ここからスポーツをどのように関連付けるかも難しいところですが、しかし、まずは広野町を知るための行動を起こす必要があると思う。</p> <p>この広野町に住んでいる人、何かの縁でこの町に関連がある人に、自慢出来るような町にできるように活動する。”</p>	遠藤悠斗 吉田 涼
パークゴルフ		運動不足を無くして行こう		FMGS	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
<p>自分たちは肥満率を低下させることを目標として立てました。だがどうやって低下せよと考えた時に、先輩のパークゴルフという探究があり、もしかしたらパークゴルフで肥満率を低下させること出来るんじゃないかと思いき、パークゴルフの探究を引き継ぐことになりました。</p> <p>まず動きとしては、高校生を対象とした肥満率のアンケートを取りました。次の動きとしては自分達が実際にパークゴルフを体験しに行き、ルールやコツなどを知ることから初めていきます。できれば、広野町の人を集めてイベントなどの開催を目標としています。</p>	奈良原志道 庭瀬宙太	<p>“自分が行っているプロジェクトは運動不足を無くして行こうです。</p> <p>このプロジェクトは地域の人の運動不足を無くし地域の活性化をはかっていこうというものです。</p> <p>まず自分がこのプロジェクトを通して行きたいことは運動というものの大切さを年齢問わず伝えていきたいということです。今のご時世、外へ出かける事が少ない中で運動不足にならないためにどうすればいいのかという考えが大事になってくると思います。そのような情報を自分が地域の人に発信していきたいと思っています。そして最終的には地域の人と運動を通して交流をはかって少しでも運動不足の人を無くしていこうというプロジェクトです。”</p>	高橋和暉	<p>女子サッカーの人口を増やすにはどうしたらいいかを考え、まずはサッカーに関わる人は女子サッカーについてどう考えているのか、どのように思っているのかを質問しそこで回答を元にどうすれば女子サッカーを様々な人に知ってもらえるようになるかと考え、Instagramの開設をして女子サッカーの動画や写真を載せました。少しでもInstagramを見た人が女子サッカーについて興味をもってもらうように女子サッカーをやりたいとおもって貰えるような投稿にしたいです。これからはイベントの開催、様々なSNSの開設・更新をしていきたいです。</p>	福富心春 戸崎良有子
野球人口を増やす		Easy Sportsでnotニガテ		動いて話して伝えよう	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
<p>私たちがなぜこの探究テーマにしたかと言うと、自分らは野球をやっており、野球人口が減っていると聞いたこと。また、広野町の運動不足を解消するため、双葉郡は昔、野球が盛んな地域だったので、なんで野球が減少しているかをインターネットで調べたところ、野球に対する悪いイメージを持っている人が多く、良いイメージもあるが良いイメージより悪いイメージが強く興味をもってもらえないのが今の現状です。</p>	岩佐翔多郎 安孫子恵太	<p>これまでに2学年全体に向けてスポーツに対してのアンケートをとり、運動が苦手や嫌いな理由は幼い頃からスポーツをやっているかやっていないかが関係すると思ったので小学生の低学年向けにスポーツの楽しさを伝え、多くの子供たちにスポーツに興味を持って貰えるようなスポーツを自分達で考え、そのオリジナルスポーツを広め、たくさんの人に知ってもらい、実行してもらえようとする。</p>	緑川然 渡部羽孔	<p>私たちは、体育館に高齢者、幼い子どもなど幅広い年代の人を集め、高齢者が今の子供に昔の遊びなどを教えて、交流を増やす。また、今の子供はゲームばかりしているので、体を動かして、ゲーム以外のことに興味を持って欲しいと思いき、このようなプロジェクトを考えました。このプロジェクトをすることで、小さい子供も高齢者も健康に繋がると思っています！</p>	齋藤久遠 柴田 千帆
サッカー部で広野町をげんきにする		怪我をなくして笑顔広がる世界を創る		外遊び減少解決	
内容	メンバー	内容	メンバー	内容	メンバー
<p>自分たちの探究テーマはサッカー部を通して原町を元気にするです。探究テーマを決めた理由は先生にサッカー部を通して何か活動すれば良いんじゃないかと言われ、一番身近な広野町の、町民の方々がサッカースポーツに興味を持ちサッカー部の試合を見ることを楽しみにしてくれるような活気のある街にしたいと思ったからです。そこで今、自分たちは、スポーツに興味があるか、生活している中で楽しみにしていることはあるかと言うアンケートを役所に出そうとしています。また富岡高校の元校長先生の青木先生にどうして富岡高校のサッカー部は地域の方々に応援されるチームだったのかお話を聞くアポをとり、お話を聞きたいと思っています。これが僕たちの現状です。</p>	足立賢彦 村上真斗 山澤優和	<p>僕たちは、主に二つのあるべき姿を探究していきます。1.スポーツ選手が怪我に対する正しい知識をもって、安心に全力でスポーツができるようになるというものです。まずは自分たちが正しい知識を学びそれをスポーツをやりたくても怪我で悩んでいる人たちに発信して少しでも力になりたいからです。具体的にはYouTubeやサイトなどを使い伝えていきます。</p> <p>2.地域の人が正しい知識をもって安心して生活できるようになるというものです。自分たちの探究で地域の活性化に繋がってほしいと思ったからです。具体的には実際に講習会を行ったり、ポスターを作ったりして伝えていきます。</p>	遠藤太勇 松崎元輝	<p>まずは、この町では外で遊んだりしている子をあまり見たりしないので、ぼくたち二人でみかんクラブさんに協力をお願いして、町の子供達に外で遊ぶ楽しさを知ってもらうことから始めます！そして、数人がはじめることで、周りの友達も一緒にやり始めてくれればこの町の外遊び減少解決に近づいていけると思います。次に、小学生にアンケートをとり、どのくらい外で遊んでいるのかと言う割合を調べることで、この町の子供達の割合を調べる人とならない人の共通点を把握し、遊んでいる子はそのまま継続してもらい、遊ばない人は、僕たちと一緒に動いたりして、外遊びの楽しさに気づいていってもらえたらいいなと思います。最後に外遊び減少を解決して、子供達が元気に遊ぶことによって町が活性化されて行くように活動を進めて行きたいと思っています</p>	草野彰仁 井堀優陽

大熊産イチゴのパンを特産品に

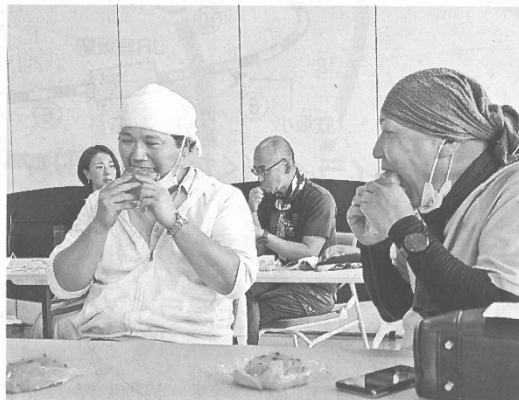
ふたば未来学園高 久保木さんが試作



試作品のパンを見せる久保木さん

ふたば未来学園高三年の久保木ふうかさん（モ）いわき市は大熊町産のイチゴを使ったパンを試作した。九月までに完成させる予定。完成後は大熊町のイベントで配布したり町内の店舗で販売したりして新たな町の特産品の一つとして発信する。

UFOのような形特徴



パンを試食する参加者

久保木さんは地域の課題を見つけて解決策を考へる同校の授業「未来創造探求」で食と関わりのある取り組みができないと生産している点に

注目した。

久保木さんはデザインの提案やパンの製作などに取り組んできた。完成した試作品のパンはUFOのような形をしている。東日本大震災前に町内で人気があり、町民に親しまれていた「UFOパン」を参考にした。ネクサスファームのおおくまが生産したイチゴを乾燥させて生地に加えた。

二十一日、大熊町役場でパンの試食会が開かれた。町やおおくままちづくり公社の職員らが参加した。久保木さんは「パンを通して町民のコミュニケーションが生まれたらうれしい」と話した。



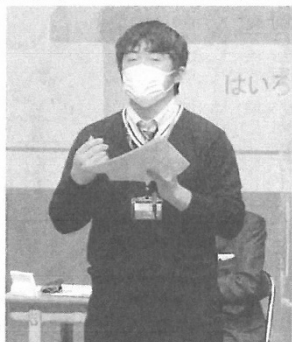
多様性踏まえ情報発信を

浪江で廃炉国際フォーラム

東京電力福島第一原発の廃炉に向けた課題に理解を促す「第五回福島第一廃炉国際フォーラム」は三十一日、浪江町地域スポーツセンターで始まった。初日は地元住民や有識者らによるパネルディスカッションを開催。廃炉作業に関し、地域や年代など多様性を踏まえた情報発信の重要性について認識を共有した。

東日本大震災・原子力災害伝承館の高村昇館長が司会を務めた。浪江町の任意団体「なみとも」の小林奈保子代表は、廃炉や放射性

物質トリチウムを含んだ処理水の海洋放出方針などに関する情報発信について、現状ではターゲットが不明確と指摘。「情報を届けた相手に応じた発信が必要だ」と訴えた。原子力損害賠償・廃炉等支援機構（NDF）の山名元（はじむ）理事長は「情報がしっかりと伝わるよう努力をしていく」と語った。フォーラムはNDFの主催。開沼博東京大大学院情報学環准教授（いわき市出身）が総合プロデューサーを務め、約二百人が来場した。昨年、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止したため、二年ぶりの開催。最終日の一日はいわき市のアリオスで開く。



廃炉などに関する意見を発表する高校生

廃炉と古里の復興 県内高校生が意見

フォーラムでは、NDFなどが事前に催したワークショップに参加したワークショップに参加した高校生が、廃炉の在り方や地域復興について発表した。

会津学鳳高、日大東北高、ふたば未来学園高、福島高専の四校から計六人が登壇した。生徒らは「若者に廃炉を自分事として捉えてもらうような取り組みが必要」「双葉郡に足を運んでもらう機会を増やすべき」など、古里復興に向けた自身の意見を述べた。有識者らは生徒の発表に熱心に聞き入っていた。



君が学ぶと
世界が変わる

77

ふくしま学びの
ネットワーク
事務局長
前川 直哉

まえかわ・なおや 兵庫県尼崎市出身。灘高に在学中、阪神大震災を経験。東京大教育学部卒、京都大大学院人間・環境学研究科単位取得退学。灘中・高の社会科教師を務めていたが、東日本大震災発生後、「教育を通じて復興を支えたい」と退職して福島市に移住した。2014（平成26）年4月、ふくしま学びのネットワークを設立し、事務局長として県内の学習支援活動に取り組んでいる。現在は、福島大教育推進機構特任准教授も務めている。44歳。

活動とPDCA

十月三日、福島市の自治会館を審査会場に「ふくしま高校生社会貢献活動コンテスト」が開催されました。福島県教育委員会とふくしま学びのネットワークの主催、福島大学アドミッションセンターの共催で、前身の「社会活動コンテスト」から数えて八回目となります。

今年度の本選には県内各地から、予選書類審査を通過した十二グループが出場しました。本選は新型コロナウイルス流行の影響でオンライン開催となり、各グループと審査会場をWeb会議システムでつないで行われました。どのグループも活動内容を魅力的に発表し、レベルの高さに審査員の先生方も皆さん驚いておられました。

今年度の最優秀賞は、白河市で活動する学校を超えたグループ「チームしゅわしゅわ」が受賞しました。地域のカフェを貸し切り、手話で接客するカフェを高校生で運営するという活動です。「全ての人を楽しめるコミュニケーションをとれる社

高校生のエネルギーに驚き



10月に行われた「ふくしま高校生社会貢献活動コンテスト」本選。Web会議システムを利用して開催された

会を目標に、手話に気軽に触れ合える場所をつくり、ふだん手話にあまり関心のない人にも手話と接してもらおうという取り組みです。六月に行われた手話カフェには五十名が参加したそうです。

優秀賞には、白河市東地域でまちおこしを行う「白河高校Smile More ひがしプロジェクト」、今と未来をつなぐ語り部活動を主軸として活動する「ふたば未来学園高校

社会起業部」、そしてWebサイト「ふたばメディア」を立ち上げ、自分たちの高校の盛んな探究活動を整理・発信している「ふたば未来学園高校メディアコミュニケーションゼミ」ふたばメディアグループの三グループが選ばれました。他のグループも生徒たちの主体的・自発的な活動がそろう、柔軟なアイデアを実際に行動に移す福島高校生のエネルギーに私自身も驚かされました。

審査委員長佐野孝治先生（福島大学副学長）は、各グループの発表を聴いた後、「PDCAサイクルをしっかりと実施している活動が多い」と高く評価しておられました。PDCAサイクルとは、Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）の頭文字をとったもので、ただ単に活動をするのではなく、事前に計画を立て、活動を実施した後には反省点を振り返り、改善して次の活動につなげる一連の流れのことです。

確かに今年度のコンテストでは、「やりっぱなし」の活動ではなく、来場者や参加者に対してアンケートを実施し、自らの活動を客観的に振り返り、反省点を洗い出したうえで、しっかりと改善を加えて次の活動につなげているものが目立ちました。

頭の中の計画だけでなく、実際に行動することで見えてくるものがたくさんあります。毎年、進化している福島の高校生たちの社会活動。来年はどんな発表が見られるか、今からとても楽しみです。

ふくしま学びのネットワークは本県から新しい教育と学びの在り方を創造・発信する非営利団体で、学習法の指導や進路相談などを行っている。ホームページや公式ブログで活動を紹介している。

福島民報 2021年11月7日（日）

オリジナルのエコバッグを完成させた生徒



校章エコバッグ製作

ふたば未来
学園 高校生

原発事故で休校 続く5校を発信

広野町のふたば未来学園高の生徒は、東京電力福島第一原発事故で休校が続く浪江高、浪江高津島校、双葉高、双葉翔陽高、富岡高の五校について発信しようとして、校章や校名をあらわしたエコバッグを製作した。一日から楢



小野さん(右)の指導を受け、エコバッグを製作する生徒

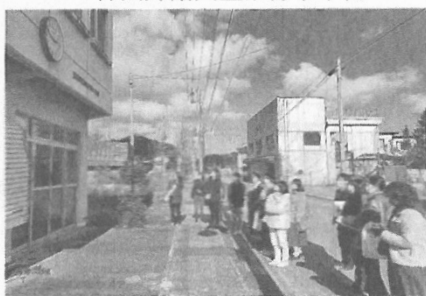
葉町の道の駅ならはななどで販売している。同校はこれまで五校の校章をかたどったピンバッジや校名を焼き印した鉛筆を製作してきた。スペシャリスト系列商業の三年生九人が新たな商品としてエコバッグの製作を企画。富岡町のおたがいさま工房代表の小野耕一さんの指導を受け、藍染めのエコバッグ作りに取り組んだ。生徒は各校の校章や双葉郡の地図が入った型紙を使って、藍染めのエコバッグに藍の色を抜く特殊なものを塗った。最後にのりを洗い流し、エコバッグに白の校章や地図、校名を浮かび上がらせた。価格は千五百円(税

込み)で、道の駅ならはなはのほか富岡町のふたばいんふおなどで販売している。長谷川優貴さん(三年)は「難しいけど、いきたい」と語った。

双葉町内を歩く学生ら

双葉歩いて現状学ぶ

神田外語大生が探求学習



東京都の神田外語大生が運営する大栄村のフリティッシュヒルズは十一月二十六日から同二十八日まで、同グループの神田外語大の学生が双葉町を歩き、復興の現状や課題を話し合う探求学習を催した。

葛尾村野行地区に約100年前から伝わる伝統芸能「宝財踊り」が東京電力福島第一原発事故による中断を経て、ふたば未来学園の高校生らの手でよみがえることになった。中心となったのは地区出身で、現在はいわき市に住む同高3年の半沢詩菜さん(18)。「古里の伝統を取り戻し、双葉郡を元気にしたい」と、所属する演劇部員らに呼び掛け、踊り手を確保した。葛尾の大人たちもサポートする「復活上演」は2月20日を予定している。

「ホーホー。ソーレー」。復活上演まで2カ月となった昨年12月20日、部員らは踊りの練習に励んでいた。宝財踊りは、住民が「棒振り」や「博徒」などの役に扮して舞い、地区の繁栄を祝う行事だ。部員らは、役に応じた道具を持ち、右足を上げては3歩進む独特の踊りを繰り返した。

野行地区では毎年10月の第4日曜日、住民らが集会所に集って踊りを楽しんだ。踊りは、集落の人々の絆を結び付ける役割を担っていた。しかし、原発事故による避難で住民は散り散りに。地区そのものも帰還困難区域になったため、踊りは後継者の不在による消滅の危機に立たされていた。

そのような中、詩菜さんは高校の教育プログラムの

野行の宝財踊り

高校生「取り戻す」

原発事故で消滅危機



「野行の宝財踊り」の復活に向け練習に励む詩菜さん(右)ら。ふたば未来学園高演劇部員たち=昨年12月20日、広野町

葛尾村民ら助言、来月上演

一環で故郷について学んでいくうちに「古里を活性化させたい」と宝財踊りの復活を志し、仲間を募った。郡山市に避難する保存会長半沢宣雄さん(68)も協力した。昨年10月、演劇部員らと会った宣雄さんは「若い感性で宝財踊りを生まれ変わらせてほしい」と呼び掛けた。伸び伸びと、詩菜さんは勇気づけられたという。

支援の輪も広がった。踊りの復活の場は、村の再興に取り組んでいる一般社団法人葛力創造舎が整えた。「若い人が踊りを復活させるなら」と、部員たちが江戸時代から現代に至る村民

Q 野行の宝財踊り 1915(大正4)年、野行地区を開墾した住民らにより始まった。昭和初期に最盛期を迎え、一時は途絶したが、有志が83年に保存会を設立して復活した。着物やわらじなどを身につけた10人の踊り手と2人の笛方で構成し、円を描くように1列となって踊る。葛尾村の無形民俗文化財となっている。

の暮らした文化を村内各地で演じ、最後に宝財踊りを披露する劇仕立てにしたかどうかとアドバイスした。劇の名前は踊りの掛け声に合わせ、「宝宝宝」とした。演出はタイ・バンコクを拠点に活動する演出家篠田千明さんが担当することが決まり、2月20日の本番に向け着実に準備が進められている。

野行地区は震災から11年を迎える今春、特定復興再生拠点区域で避難指示が解除され、ようやく復興のスタートラインに立つ。同法人の下枝浩徳代表理事(36)は「葛尾の記憶を後世につないでいきたい」と力を込める。詩菜さんは「楽しんで踊りたい。多くの人に見てほしい」と期待に目を輝かせる。(渡辺晃平)

福島民友 2022年1月6日(木)

ふたば未来学園高 日本語、英語で金賞

全国グローバル探究発表会

全国の高校生が地域課題解決の取り組みを紹介する「全国高校グローバル探究オンライン発表会」が開かれ、広野町のふたば未来学園高のグループが日本語発表、英語発表の両部門で金賞に輝いた。

全国の文部科学省指定グローバル型地域協働推進校などから三十校が参加し、日本語発表、英語発表各部門で



日本語発表部門で金賞に輝いた木田さん（右）と宮迫さん

各校の代表が成果を発表した。一般社団法人 Global Academy of the 21st Century の岡本尚也代表理事らが、事前に各

校から提出された動画を審査し、部門ごとに金賞などを決めた。日本語発表部門では三年の木田晏奈さん



英語発表部門で金賞の（左から）菅波さん、渡辺さん、山内さん、森さん

（こ）と宮迫柚果さん（ひ）のグループが金賞に入った。鉄不足によって生じる鉄欠乏性貧血

から「鉄たまごの可能性」に迫り、緻密な実験や具体的な提案を行ったことが評価された。

英語発表部門では三年の渡辺快さん（こ）と菅波竜人さん（こ）、森俊輔さん（こ）、山内直さん（ひ）のグループが金賞・探究成果発表委員会特別賞を獲得した。若者に人気のゲーム「マイクラフト」を使い、将来の双葉郡の構想を3D空間上に表現した手法が面白いと評価された。

同校は昨年の日本語発表部門の金賞・文部科学省初中等教育局長賞の受賞に続き二年連続の金賞受賞。両部門で金賞を獲得したのは同校と山形東高の二校のみだった。

氏友 刊 4福

復興の課題 若者と共有



副読本の完成を報告する（右から）渡辺さん、佐川さん、吉田さん、斎藤さん

広野の高校生ら副読本

広野町のNPO法人ハッピに参加した高校生らが、原
ピロードネットの本年度 発から出る放射性廃棄物の
の復興を担う人材育成事業 処分の行方など本県復興の

核のごみ、廃炉問題の学び伝える

課題を題材にした副読本だ。「Shirumanabu 副読本では、最終処分場（知る学ぶ）を作成した。の選定を巡り調査反対派の生徒たちは10日、同町で完住民との向き合い方をテーマに寿都町の片岡春雄町長の仲間と学びの成果を共有と対談した内容を掲載。高生したい」と呼び掛けた。校生の目線で東京電力福島第1、第2原発の現状や副読本はB5判計36冊で、同NPOが約1万9千冊を発行し、英訳版も約2千冊作成した。今後、県内の高校や海外の教育機関に配布し、授業などで活用される予定。

人材育成事業は昨年7月から11月にかけて行われ、主に浜通りの高校生11人と指導役を務めた本県ゆかりの大学生4人が参加。原発から出る高レベル放射性廃棄物（核のごみ）の最終処分場選定で第1段階の調査を受け入れた北海道寿都町や、国策の核燃料サイクル政策を担う日本原燃（青森県六ヶ所村）などを訪問し、本県復興と深く関わるエネルギー政策について学んだ。

副読本では、最終処分場の選定を巡り調査反対派の住民との向き合い方をテーマに寿都町の片岡春雄町長の仲間と学びの成果を共有と対談した内容を掲載。高生したい」と呼び掛けた。校生の目線で東京電力福島第1、第2原発の現状や副読本はB5判計36冊で、同NPOが約1万9千冊を発行し、英訳版も約2千冊作成した。今後、県内の高校や海外の教育機関に配布し、授業などで活用される予定。

完成報告会には、広野町のふたば未来学園高の渡辺空さん（18）、佐川生華さん（17）、吉田百華さん（17）、斎藤康洋さん（17）が参加。佐川さんは「現地を訪ねなければ分からない経験を副読本を通して伝えたい」、斎藤さんは「復興について正しい知識を知ってもらいたい」と話した。

副読本は、同NPOが2017（平成29）年度から5カ年計画で始めた人材育成事業の各年度の参加生徒と共に毎年発行しており、今回発行の第5号が最終号となる。

福島民友 2022年2月11日（金）

国際高校生放射線防護ワークショップ 2021 Radiation Protection Workshop in Fukushima

福島の高校生が

1/23 福島市 キョウウグループ テルサホール(福島テルサ) 発表会

安積高 「国際高校生放射線防護ワークショップ」

研修の中で感じた多くの方々に伝えたい活動を紹介する。近郊の地域づくりに取り組むNPO法人「ハッピーロードネット」。東日本大震災後、子どもたちに放射線教育を肌で感じてもらいたいとチェルノブイリ原発事故の被害を受けたウクライナやペラルーンなど海外研修を実施した。震災前から高校生たちの意見が始まった、30年後の故郷に遊ぶふくしま浜街遊覧プロジェクトも進めている。2021年3月までに浜通りを縦断する国道6号線沿いに約12,000本の桜の木を植樹。地域を良くしたいと活動する人たちのあがきで福島県は奇実に復興し、魅力ある県になっている。

震災後の活動が特徴的だった飯沼村。どの自治体も難色を示していた。除染こみを模倣する「災害・除染廃棄物処理施設」の設置と「除去土壌の再生利用実証事業」の実施を促した。近隣自治体に対する震災での避難受け入れへの感謝、復興全体への関与が恒産にあった。村の理念「ままでの心」は震災復興、今後の災害対応への参考になる。

ふたば未来学園高 「高校生という視点、ふたば未来学園生という視点から」

震災と深いつながりを持つふたば未来学園高の生徒が福島県の高校生についてどのような知識を持っているか、2年生を対象にアンケートを実施した。処理水の「安全性」「海洋放出」や「風評被害」などの項目について「ニュースなどで聞いたことがあるが詳しくは知らない」割合が高く、学校は社会の縮図と考えたと福島県の問題の知識や関心のなさは思った以上に深刻な状況だと感じた。

合わせて、2年生(2016年度入学)から5年生(2019年度入学)までの課題意識をテキストマイニングで分析した。文字が大きいほどその言葉の出現率が多いことが分かり、重要性を図ることができる。2年生は「東日本大震災」「災害」に関するワードが多かったが、5年生には見られなくなった。学業の盛り立ちや独立した意識を知る機会が段々と少なくなってきたのではないかと、ワークショップを通して情報発信の大切さを強く実感した。正しいという観念の払拭、分かりやすい情報の提示を意識していきたい。



発表会に参加した生徒

1/5 宮岡町 大熊町 双葉町

東京電力廃炉資料館、東京電力福島第一原子力発電所 廃炉作業進む 東電福島第一原発見学

宮岡町、大熊町、双葉町の高校生が、東京電力福島第一原子力発電所を見学し、廃炉作業の進捗を確認した。

1/23 福島市 キョウウグループ テルサホール(福島テルサ) 発表会

安積高 「国際高校生放射線防護ワークショップ」

研修の中で感じた多くの方々に伝えたい活動を紹介する。近郊の地域づくりに取り組むNPO法人「ハッピーロードネット」。東日本大震災後、子どもたちに放射線教育を肌で感じてもらいたいとチェルノブイリ原発事故の被害を受けたウクライナやペラルーンなど海外研修を実施した。震災前から高校生たちの意見が始まった、30年後の故郷に遊ぶふくしま浜街遊覧プロジェクトも進めている。2021年3月までに浜通りを縦断する国道6号線沿いに約12,000本の桜の木を植樹。地域を良くしたいと活動する人たちのあがきで福島県は奇実に復興し、魅力ある県になっている。

震災後の活動が特徴的だった飯沼村。どの自治体も難色を示していた。除染こみを模倣する「災害・除染廃棄物処理施設」の設置と「除去土壌の再生利用実証事業」の実施を促した。近隣自治体に対する震災での避難受け入れへの感謝、復興全体への関与が恒産にあった。村の理念「ままでの心」は震災復興、今後の災害対応への参考になる。

ふたば未来学園高 「高校生という視点、ふたば未来学園生という視点から」

震災と深いつながりを持つふたば未来学園高の生徒が福島県の高校生についてどのような知識を持っているか、2年生を対象にアンケートを実施した。処理水の「安全性」「海洋放出」や「風評被害」などの項目について「ニュースなどで聞いたことがあるが詳しくは知らない」割合が高く、学校は社会の縮図と考えたと福島県の問題の知識や関心のなさは思った以上に深刻な状況だと感じた。

合わせて、2年生(2016年度入学)から5年生(2019年度入学)までの課題意識をテキストマイニングで分析した。文字が大きいほどその言葉の出現率が多いことが分かり、重要性を図ることができる。2年生は「東日本大震災」「災害」に関するワードが多かったが、5年生には見られなくなった。学業の盛り立ちや独立した意識を知る機会が段々と少なくなってきたのではないかと、ワークショップを通して情報発信の大切さを強く実感した。正しいという観念の払拭、分かりやすい情報の提示を意識していきたい。

高校生が広野に光

ふたば未来生 熱い議論



町内に設置したイルミネーションを囲みながら談笑する
(左から)鈴木さん、西間木さん、貝沼さん、中島さん

「どうしたら取り組みを知ってもらえるかな」「回覧板にアンケート入れてみたらどうだろう」。2月下旬の休日、広野町のふたば未来学園高を訪れると、熱い議論を交わす生徒たちの姿があった。議論の中心にいるのは、生徒会長の中島一葉さん(17)だ。東日本大震災から間もなく11年となるが、まだ町内の街灯は少ない。中島さんは「町と住民の心を明るくしたい」と考え、通学路にイルミネーションを設置するプロジェクトを考えた。その思いに賛同した

2年の鈴木真さん(17)、貝沼秀基さん(17)、西間木健太さん(17)とともに、1月末から実際に点灯を始めた。

4人は取材した時、2月末まで点灯期間をさらに延長し、より良いものにしてと意見を交わしていた。ホワイトボードに課題を次々と書き出す。「イルミネーションのそばに看板も設置したいよね。ふたば未来の生徒がやって分かるように」「せっかくだったら新入生にも見てほしいよね」。2時間経っても、アイデア

ゼミから広がる課題解決

が尽きることはなかった。ふたば未来学園高には、原子力防災や再生可能エネルギーなど興味があるテーマを選び、自分たちで地域課題の解決を考える「探究ゼミ」の時間がある。生徒たちはゼミで学んだことを生かし、イルミネーションに太陽光発電を活用するなど、環境に配慮した取り組みにこだわった。「再エネで広野町に彩りを」がテーマになっている。

話し合いが一段落すると、イルミネーションの設置場所まで案内してくれた。ハートの形や円すいの置物に電飾を巻き付けて作ったという。「これ全部です」と、イルミネーションを指さし、興奮気味に話す。

生徒たちの情熱を感じるとともに、ふと考えた。自分の高校生活を振り返ると、これまで地域のことを考えて行動したことは、ついぞなかった。生徒たちに理由を聞いてみた。中島さんは「せっかくだここに入学したのですから。地域を巻き込んで何か成し遂げたいんです」と目を輝かせて答えた。「自分もすっかりしなければ」と刺激を受けた。

帰りの道、浜通りを南北につなぐ国道6号を車で走りながら、復興途上の街並みを眺めた。「変革者たれ」という教育方針で学んだ生徒たちが、大人たちに続き前例のない分野が多い本県の復興を築いていくと確信した。

(相双支社・斎藤駿)

双葉の6号国道に花植栽

ハッピーロードネット 高校生らが協力

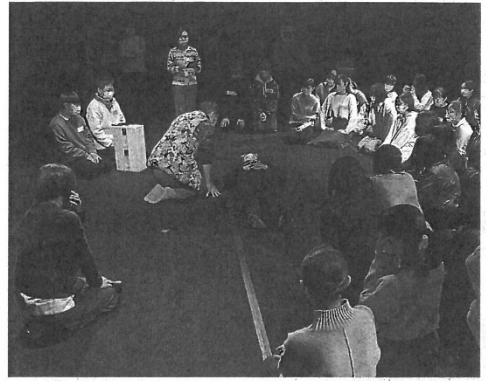


花壇にヒオオろを植栽する生徒

広野町のNPO法人ハッピーロードネットは十八日、東京電力福島第一原発事故で全町避難が続く双葉町の六号国道沿いの花壇で植栽活動を行った。南相馬市の相馬農高と広野町のふたば未来学園高校の生徒らが参加し、地域を明るくしようと協力をこめて汗を流した。

花壇は双葉厚生病院入り口交差点にあり、原発事故発生前は双葉高生が花苗を植えていた。町民を元気づけた。同法人が二〇一七(平成二十九)年に植栽を再開した。植栽には両校の生徒と前田建設工業の社員ら合わせて約六十人が参加した。相馬農高の生徒が今年七月から育ててきたヒオオろの苗約四千株を植えた。生徒は、六号国道を通る人に喜んでもらうようと、笑顔のマークができるように苗を配置し、丁寧に土を掛けつけた。

福島民報 2021年10月21日(木)



演劇を通して交流した両校の生徒ら

埼玉の高校生と演劇

ふたば未来学園 双葉郡で研修会

埼玉県加須市の不動岡高のスタディーツア「ふくしま学宿」は二十六、二十七の両日、双葉郡内で開かれ、広野町のふたば未来学園高演劇部の生徒らとの交流を楽しんだ。東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の被災地の現状に理解を深めようと毎年実施している。一、二年生二十七人が参加した。生徒は二十六日、双葉町の東日本大震災・原子力災害伝承館などを見て回った。二十七日には、ふたば未来学園高を訪れ、研修の成

果を五分間の劇にまとめて発表した。発表では、不動岡高の生徒が七つの班に分かれ、演劇部の生徒と意見を出し合いながら劇にまとめた。生徒はコミュニケーションの大切さや復興の光と影など、研修を通して印象に残ったことをステージで堂々と表現していた。研修には、いわき市で地域包括ケアに取り

組む「igoku(いごく)」が協力した。若松のNPOにパソコンを寄贈 県信用組合協会 県信用組合協会(江尻次郎会長)は二十二日、障書見の「放課後等デイサービス事業」を行っている会津若松市のNPO法人ハッピーロードに、パソコン

福島民報 2021年12月30日(木)

ふたば未来高と北海道、高知の高校 コラボで特産品紹介

道の駅ならはで販売会



広野町のふたば未来学園高は二十三日、福島県道の駅ならはで、北海道や高知県の高校と連携した三道具体特産品販売会を開いた。県外の

各高校と道の駅ならはをオンラインで結び、生徒が画面越しに商品を紹介しながら特産品を販売した。販売会はコロナ禍の中で、各高校が連携してそれぞれの地域を盛り上げようと企画した。ふたば未来学園高と、北海道の浦河高、斜里高、高知県の佐川高の計四校が参加した。ふたば未来学園高の来店者は、売り場に設置された画面を通してお薦めの特産品を聞きながら、次々に商品を買って求めた。

福島民報 2021年 月 日()

広野

地域課題を研究 ふたば未来 成果発表会

「協働」の大切さ



未来創造探究の学びの
成果を紹介した発表会

分科会に続いて全体
会を開き、全校生徒と
教職員が出席した。大
学教授や復興支援団体
の代表者を審査員に迎
え、選考を勝ち抜いた
八つのプロジェクトの
発表を行った。

生徒は大熊町のイチ
ゴを使ったパン作りや
広野町特産のバナナの
包装を削減する取り組
みなど、実践を通して
得られた成果を紹介。
審査員からの質問に堂
々と答えていた。

本校は独自の授業と
して「未来創造探究」
を実施し、原子力防災
探究やメディア・コミ
ュニケーション探究な
ど六つのゼミに分かれ
て活動している。高校
三年生が個人やグルー
プで一年余り研究を進
めてきた成果発表の場
として開いた。

広野町のふたば未来
学園中・高の「未来創
造探究」生徒研究発表
会は二十五日、同校
で開かれ、生徒が地域
の課題解決に取り組
んできた成果を発表し
た。

福島民報 2021年9月28日(火)

い 確 実 で 1 週 間

門馬氏、立民系市議らが桜井氏をそれぞれ支持する。

原発事故に伴う住民避難を考慮して前回に続き、告示から投票前日までの選挙期間を10日間に延長して行われる。

昨年12月1日現在の南相馬市の有権者数は5万1392人(男性2万5702人、女性2万5690人)。

風評被害防止へアイデア

県内高校生ワークショップ



処理水に対する疑問や風評被害を防ぐアイデアなどを話し合う生徒

福島、安積、ふたば未来学園の3高校の生徒と教職員は5日、東京電力福島第

1原発を訪れ、廃炉作業の現場などを見学した。見学後に「国際高校生放射線防

護ワークショップを開き、廃炉や処理水に関する疑問を整理して風評被害を防ぐアイデアなどを話し合った。

一行は東京電力廃炉資料館を見学し、資源エネルギー庁で廃炉や処理水対策を担う木野正登参事官の講話を聞いた。その後、第1原発構内の高台から、廃炉作業が進む1、4号機を眺めた。

ワークショップには生徒や木野氏ら約30人が参加。各グループに分かれて意見を交わした。生徒は「全ての処理水の放出にかかる期間」について木野氏に質問したり「義務教育に放射線学習を取り入れる」など風評対策を発表したりした。

安積高2年の高津未彩さん(17)は「初めて第1原発を見学した。事故当時のイメージのままでしたが、現状を知ることができて良かった」と話した。生徒らは今後、23日に福島市で今回

の成果をまとめる。5月にはオンラインで、フランス

今年の飛躍誓う

いわきで新春交歓会

いわき市といわき商工会議所の実行委員会は5日、同市で新春市民交歓会を開き、今年の飛躍を誓った。

2年ぶりの開催で約350人が出席。内田広之市長が「市民と課題を共有しながら市勢発展に尽くす」、小野栄重会頭が「行政と連



新春市民交歓会で話聞きを行う内田市長(右から2人目)

の高校生らへ廃炉作業の現状などを発表する。

携しながら地域一体となつてコロナを乗り越える」とそれぞれあいさつした。

森雅子参院議員、内堀雅雄知事が祝辞を述べ、サツカ1J3に参入するいわきFCの八百智社長と村主博正新監督が今季の応援を呼び掛けた。内田市長や小野会頭、遠藤智広野町長、大宰堂之市議会議長らが鏡開きを行った。

新型コロナウイルス感染防止対策のため、参加は1事業所2人とし、事前申し込みに限った。

働きやすい職場へ

県労働福祉協、連合福島

県労働福祉協議会と連合福島は5日、福島市で新春交歓会を開き、労働者が働きやすい職場づくりに向けた決意を新たにした。

県労働協・連合福島の今野幸夫会長が主催者あいさつ

但馬日記

第33回 「普通の町」幻想を 超えて

— 福島の矛盾、豊岡の苦悩 —

平田オリザ

ひらた・おりざ 劇作家・演出家
劇団「豊田」主宰
一九六〇年 東京生まれ

連載



ふたば未来学園高校の演劇学習成果発表会。
撮影＝齋藤夏葉子

「年内には一度降って、それが溶けて、一月から本格的な冬が来る」と毎年のように聞かされ、やはり今年この原稿を書いているのは二月の中旬も同じようになった。二月十七日は朝から雷まじりのみぞれと強風で、夕刻か

に寸劇を創り、クラス代表、学年代表を選んできて、さらにそれを英語劇にして国連で福島のいまを伝えるような試みもしてきた。

当初は私が直接授業を受け持っていたが、いまは私の後輩たちがその指導に当たっている。もちろん「復興パンザイ」福島は頑張っている」といった作品を創るわけではない。福島が抱える苦悩、矛盾を率直にあらわす作品が並ぶ。

■ 演劇で災禍の記憶を繋ぐ

開学してからの一、二年は震災の記憶が生々しく、それを演劇にすること、フィクションとして表現することに抵抗を示す生徒もいた。それでも福島を見つめ、それを伝えることの意味とともに考える日々だった。

ここ数年の課題は、震災の体験や記憶がまだら状になってきたことだ。避難生活がまだまだ深い心の傷となつて残っている生徒もいれば、あまり記憶

には、あるいは実際に避難期間が短かった生徒もいる。さらに各地にバラバラになっていたトップアスリートコースが三年前の新校舎の完成とともに集約され、福島とは縁もゆかりもない生徒たちが一定数入学するようになった。

■ 福島県立ふたば未来学園を再訪

久しぶりに福島を訪れた。県内の大

には、あるいは実際に避難期間が短かった生徒もいる。さらに各地にバラバラになっていたトップアスリートコースが三年前の新校舎の完成とともに集約され、福島とは縁もゆかりもない生徒たちが一定数入学するようになった。

ふたば未来学園は双葉郡にあった五つの高校（そのほとんどが風向きの関係で放射線量の高い地域にあり休校を余儀なくされた）を統合する形でできた新設校だ。そのかつての五校の中には、バドミントンの桃田選手の母校富岡高校もあり、いまも伝統を受け継ぐ形で全国から日本代表クラスの生徒たちが集まっている。

そして、いよいよ震災の記憶がほとんどない世代が入学してくる。大人の一〇年と、一五歳にとつての一〇年は大きく異なる。震災の記憶のないあるいは薄い高校生たちにとって、原発事故とその後の廃炉処理は文字通りの

きな期待と、見せかけの復興のシンボルにされるのではないかという疑心暗鬼の中でスタートした県立ふたば未来学園も、開学から七年目を迎えた。

関西に居を移したことは自分の仕事上のことだから仕方ないのだが、一つだけ後悔があるとすれば東北から距離が遠くなってしまった点だ。震災後、多い年はほぼ毎月福島に通っていたのだが、いまはそれも難しい。今回も、大学の仕事が終わってから午後六時に但馬空港を出る便で東京に入り、さらに翌日早朝に列車で福島へと向かった。一日中、高校生たちの演劇発表を見て、今度は五時台の列車で（常磐線が全通となり一部の特急が広野町に停車するようになった）東京に戻る。翌朝の飛行機でまた但馬に帰って、その足で大学に出勤した。要するに二泊三日の行程だ。

ふたば未来学園では、高校一年生が全員、インタビューを元に地域課題を演劇にする授業を行っている。班ごと

不条理であり、しかし彼らは否が応でも、そこと向き合っていかなければならない。指導する教員は、また新たな苦勞を抱える。

■ 「処理水」がもたらす苦悩

さらに、政府の目論見通りなら、今年入学してきた新入生が三年になったときに、ALPS処理水の海洋放出が始まる。福島は再度、苦渋の選択を迫られている。

今年の演劇発表でも、この処理水放出問題を扱った班がいくつかあった。例えばある班は東電の实在の広報担当の方の話の軸に展開する。その女性は震災の時に高校三年生で東電への就職が決まっていた。「被災者が加害者になる」(本人の言葉)と迷った末に、やはりそのまま就職をして現在は福島復興本社に勤務し、海洋放出について地元理解を求めるとの仕事を進めている。

もちろん高校生たちは、処理水の海洋放出問題について、賛成、反対双方

世界 SEKAI / 2022.2

の主張を取材して劇を創る。その矛盾、その不条理を、どこまで解像度を上げて演劇にできるかが問われる。

■「普通の町」が目標でいいのか

思いのほか、福島についての記述が長くなってしまった。二〇二二年四月の豊岡市長選の顛末の続きを書こう。

市長選挙の最中、候補者の公開討論会において、司会者からの「豊岡をどんな町にしたいですか？」という問いかけに、関野現市長は「普通の町」と答えた。この言葉は豊岡財界の若手経営者たちをもっとも落胆させた。

しかし一方で、この言葉はもしかすると多くの人の共感を生んだかもしれない。「演劇の町」なんてなくていい。「コノトリの町」でさえなくていい。日々の生活を守ってほしい。その願いはまっとうで切実なものだろう。

ただ、いまの日本で「普通の町」を屈指することは、そのまま衰退を意味してしまう。

この点は、実はきわめて本質的な問題だ。

安倍政権が提唱した地方創生政策の根幹は地域間の競争だった。地方自治体に人口減少対策のアイデアを出させ、それを競わせることで補助金の配分を決める。全国一律の救済ではなく、努力した自治体だけが生き残る、まさに「自助」を中心としたシステムだ。

豊岡市はその地方創生政策の優等生として、コノトリの再生に象徴される環境政策、演劇を中心とした文化政策、城崎温泉を中心とした観光政策、さらにジェンターギャップの解消などを旗印に多くの予算を獲得してきた。

当然、この地方創生政策自体に批判はあるだろう。地方自治体を競わせたところで結局はゼロサムゲーム、あるいは若者世代の取り合いになるだけで、国家全体としての人口減少対策にはならないのではないかという説もある。あるいは「誰もが豊岡になれるわけ

はない」という、消極的だが現実的な見方も根強い。

だが少なくとも、各自治体が少子化対策や新しいまちづくりのアイデアを出し合うこと自体は間違っていないだろう。またそこに、それなりの補助金を付けることも、国家の政策として大きな誤りとは言えないのではないか。人間はそれほど賢くはなく、平等、一律の「補助」は意情を招くのも事実だろうから。

これまでの連載で見えてきたように、昨年四月の豊岡市長選挙の結果は、はからずも日本の地方自治政策が抱える矛盾や混沌を浮き彫りにするものとなった。本気で地方創生に取り組み、それが成功の兆しを見せ、若い世代やアーティストたちの移住が始まった途端に地域が拒否反応を見せた。

しかしその拒否反応は、市全体のものではない。一五〇〇票差という微妙な数字だけが残った。